

②クロス集計結果：

■全体

- ※年齢の区分は①20代未満 ②20歳代③30歳代 ④40歳代⑤50歳代 ⑥60歳代 ⑦70歳以上
- ※居住地区分は①下地区 ②上地区（南上原を除く） ③南上原
- ※家族構成は①子どもがいない世帯 ②子育て世帯
- ※居住形態は①持ち家 ②賃貸 ③その他

1軸	×	2軸
●問1 生活環境に対する評価		年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態
●問2 中城村の課題		年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態
●問3 将来イメージ		年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態
●問4 子どもの有無		年齢、居住地、居住形態
居住形態		年齢、居住地、家族構成、居住年数

■子育て

- ※年齢の区分は①20代未満 ②20歳代③30歳代 ④40歳代⑤50歳代 ⑥60歳以上
- ※居住地区分は①下地区 ②上地区（南上原を除く） ③南上原
- ※子どもの数は①1人 ②2人 ③3人 ④4人以上
- ※家族構成は①夫婦と子ども ②三世代 ③シングル世帯

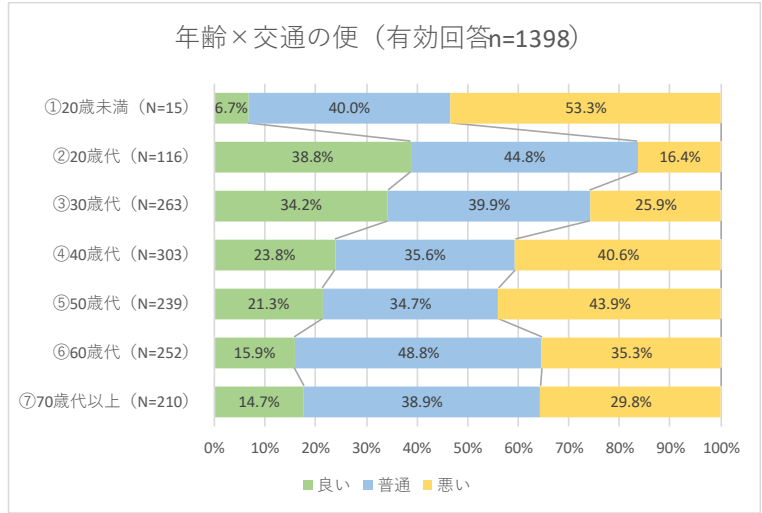
1軸	×	2軸
子どもの数		年齢、居住地
子どもの年齢		年齢、居住地
●問6 悩みや心配		年齢、居住地、子どもの数、家族構成
●問7 子育てしにくいところ		年齢、居住地、子どもの数、家族構成
●問8 支援や制度について		年齢、居住地、子どもの数、家族構成

(1) 全体について

i) 問1-交通の便×年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態(全て無回答を除く)

■ ×年齢

	良い	普通	悪い
①20歳未満 (N=15)	1	6	8
②20歳代 (N=116)	45	52	19
③30歳代 (N=263)	90	105	68
④40歳代 (N=303)	72	108	123
⑤50歳代 (N=239)	51	83	105
⑥60歳代 (N=252)	40	123	89
⑦70歳代以上 (N=210)	37	98	75

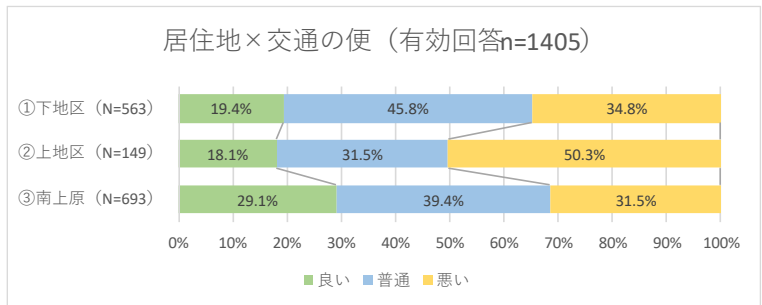


【所見】

年代別にみると、20歳未満を除いて、年代が高くなるほど「良い」と回答した人が少なくなっている。また悪いと回答した人は20歳未満で特に多く、40代、50代も多くなっている。20代については自家用車の所有の有無が要因の一つとしては考えられるが明確ではない。また40代、50代については自身の通勤等に加えて子どもの通学についても考慮に入っているからだと考えられる。

■ ×居住地

	良い	普通	悪い
①下地区 (N=563)	109	258	196
②上地区 (N=149)	27	47	75
③南上原 (N=693)	202	273	218

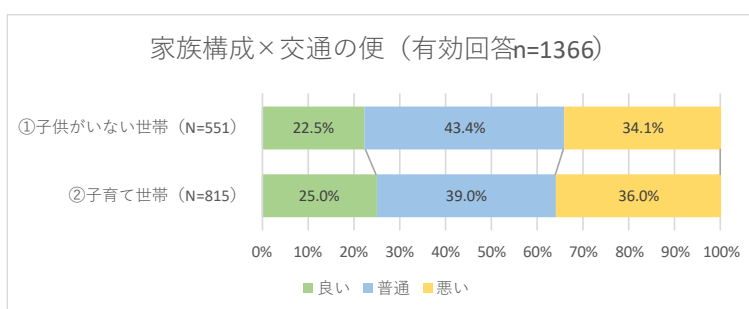


【所見】

居住地別にみると南上原以外の上地区について「悪い」の回答が多くなっている。役場機能や図書館、学校などが下地区に集中していることが要因の一つであると考えられる。

■ × 家族構成

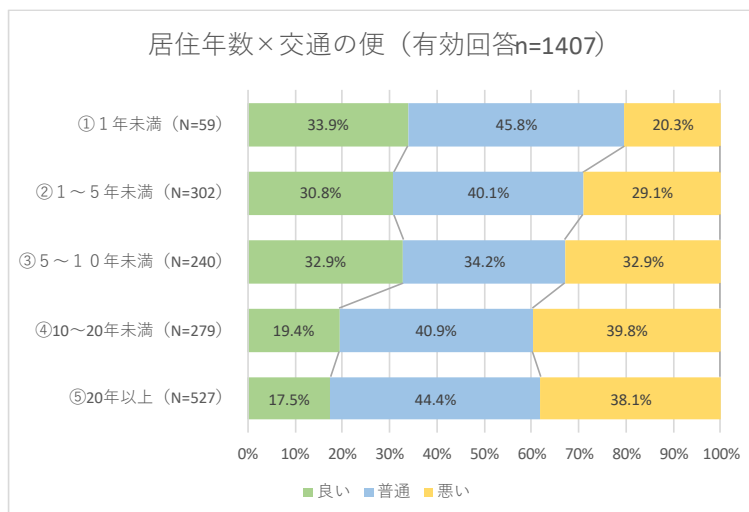
	良い	普通	悪い
①子供がいない世帯(N=551)	124	239	188
②子育て世帯(N=815)	204	318	293



【所見】
家族構成でみると、子育て世帯かどうかで差はみられなかった。

■ × 居住年数

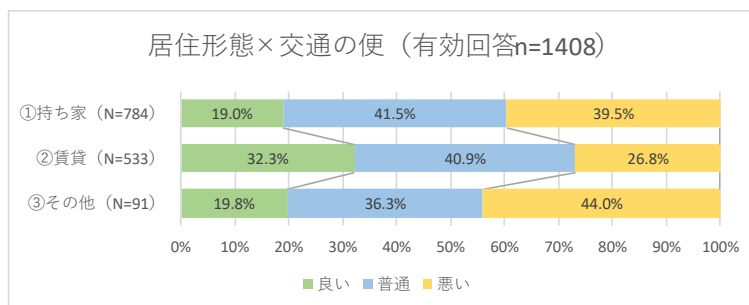
	良い	普通	悪い
①1年未満(N=59)	20	27	12
②1～5年未満(N=302)	93	121	88
③5～10年未満(N=240)	79	82	79
④10～20年未満(N=279)	54	114	111
⑤20年以上(N=527)	92	234	201



【所見】
居住年数でみると、居住年数が長いほど「悪い」の割合が増加している。

■ × 居住形態

	良い	普通	悪い
①持ち家(N=784)	149	325	310
②賃貸(N=533)	172	218	143
③その他(N=91)	18	33	40

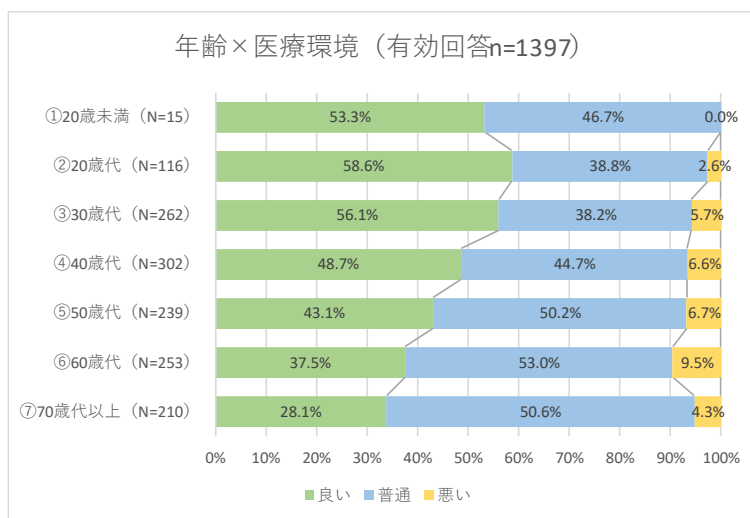


【所見】
居住形態でみると、賃貸の方が「良い」の割合が高い。これは賃貸居住者の割合が南上原に多いことが要因であり、前頁の居住地別のクロス集計の結果と一致する。

i) 問1-医療環境×年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態(全て無回答を除く)

■ ×年齢

	良い	普通	悪い
①20歳未満 (N=15)	8	7	0
②20歳代 (N=116)	68	45	3
③30歳代 (N=262)	147	100	15
④40歳代 (N=302)	147	135	20
⑤50歳代 (N=239)	103	120	16
⑥60歳代 (N=253)	95	134	24
⑦70歳代以上 (N=210)	71	128	11

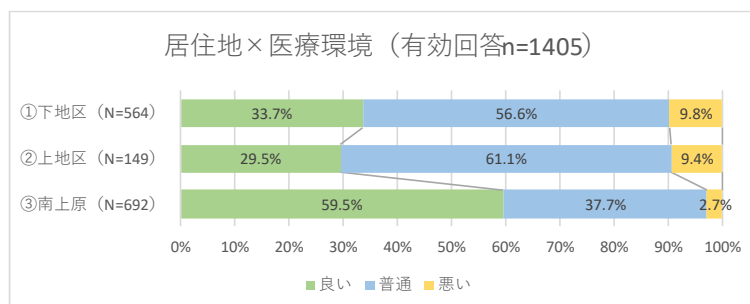


【所見】

年代別にみると、年代が上がるにしたがって「良い」の割合が減少し、「悪い」の割合が増加しているが、全体として「悪い」と回答した人は少なく、総じて良い評価だと考えられる。

■ ×居住地

	良い	普通	悪い
①下地区 (N=564)	190	319	55
②上地区 (N=149)	44	91	14
③南上原 (N=692)	412	261	19

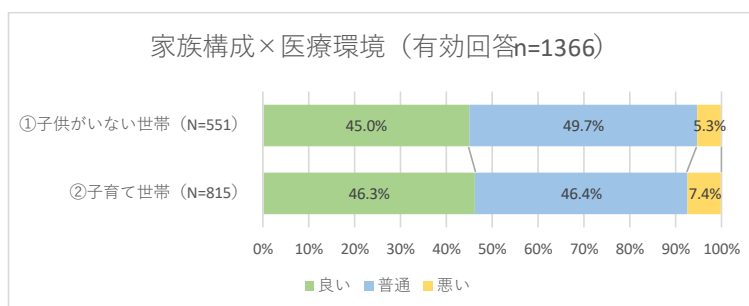


【所見】

居住地別にみると、南上原における評価が他地区に比べて圧倒的に良くなっている。南上原は他地区に比べて若年者が多いため、上の年齢構成とも比例すると考えられる。

■ × 家族構成

	良い	普通	悪い
①子供がいない世帯 (N=551)	248	274	29
②子育て世帯 (N=815)	377	378	60

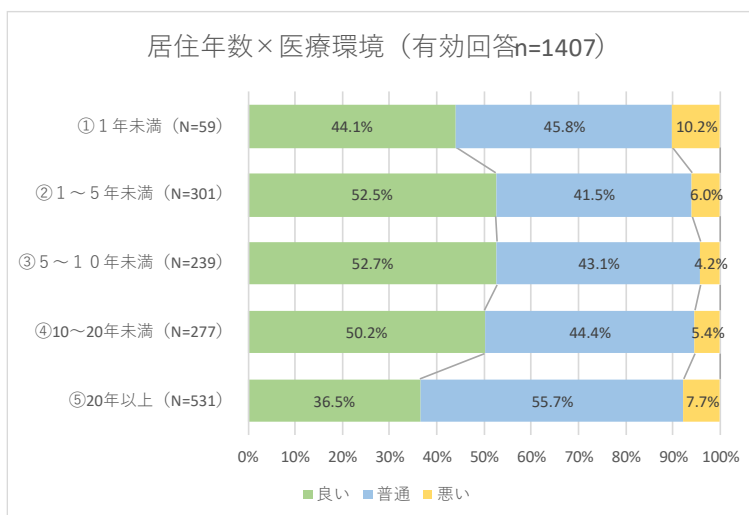


【所見】

家族構成で見ると、子育て世帯かどうかで大きな差はみられなかった。

■ × 居住年数

	良い	普通	悪い
①1年未満 (N=59)	26	27	6
②1～5年未満 (N=301)	158	125	18
③5～10年未満 (N=239)	126	103	10
④10～20年未満 (N=277)	139	123	15
⑤20年以上 (N=531)	194	296	41

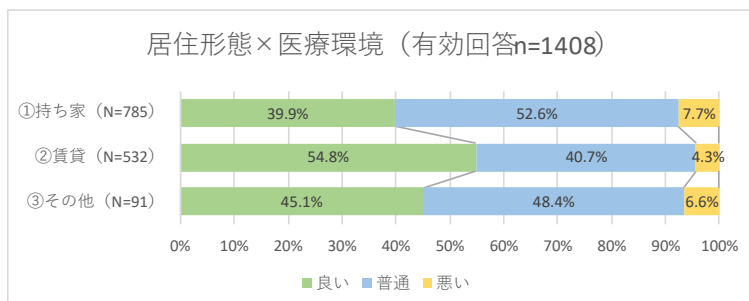


【所見】

居住年数で見ると、1年未満と20年以上で「良い」の割合が低く「悪い」の割合が高い。

■ × 居住形態

	良い	普通	悪い
①持ち家 (N=785)	313	412	60
②賃貸 (N=532)	292	217	23
③その他 (N=91)	41	44	6



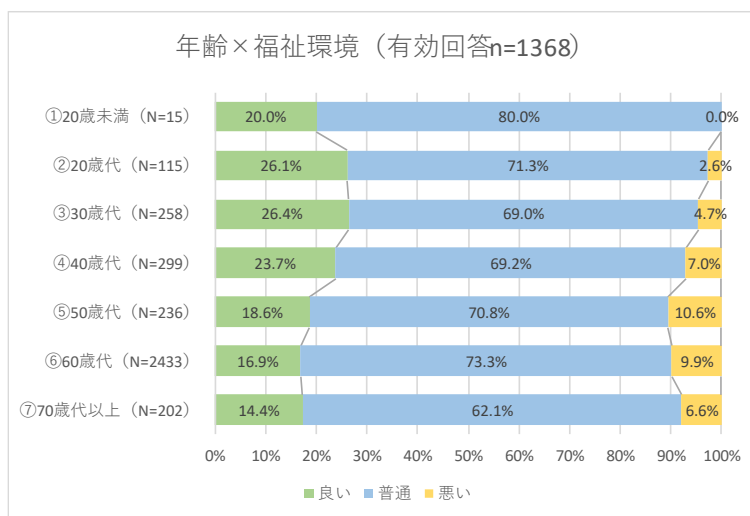
【所見】

居住形態で見ると、賃貸の方が「良い」の割合が高い。これは賃貸居住者の割合が南上原に多いことが要因であり、前頁の居住地別のクロス集計の結果と一致する。

i) 問1-福祉環境×年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態(全て無回答を除く)

■ ×年齢

	良い	普通	悪い
①20歳未満 (N=15)	3	12	0
②20歳代 (N=115)	30	82	3
③30歳代 (N=258)	68	178	12
④40歳代 (N=299)	71	207	21
⑤50歳代 (N=236)	44	167	25
⑥60歳代 (N=2433)	41	178	24
⑦70歳代以上 (N=202)	35	151	16

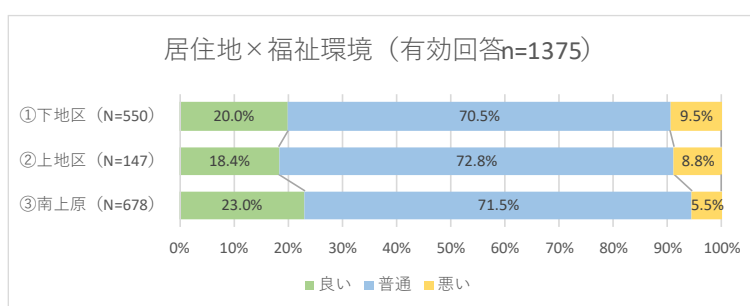


【所見】

年代別にみると、30代の評価が最もよく、年代が上がるにしたがって若干ではあるが「良い」の割合が減少し、「悪い」の割合が増加している。

■ ×居住地

	良い	普通	悪い
①下地区 (N=550)	110	388	52
②上地区 (N=147)	27	107	13
③南上原 (N=678)	156	485	37

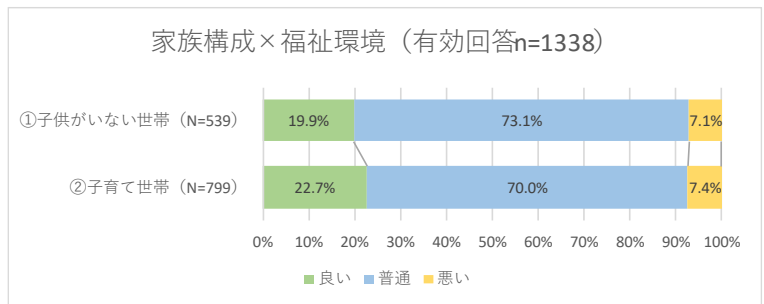


【所見】

居住地別にみると、南上原における評価が他地区に比べて若干高くなっているが、大きな差は見られない。南上原は他地区に比べて若年者が多いため、上の年齢構成とも比例すると考えられる。

■ × 家族構成

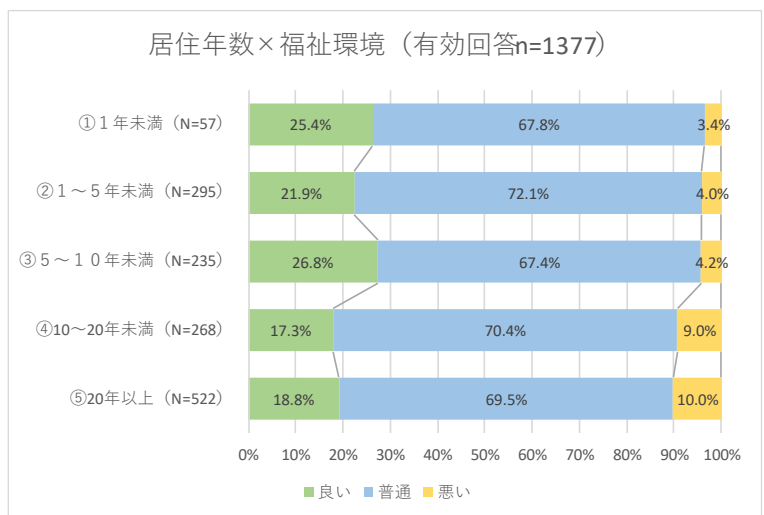
	良い	普通	悪い
① 子供がいない世帯 (N=539)	107	394	38
② 子育て世帯 (N=799)	181	559	59



【所見】
家族構成で見ると、子育て世帯かどうかで大きな差はみられなかった。

■ × 居住年数

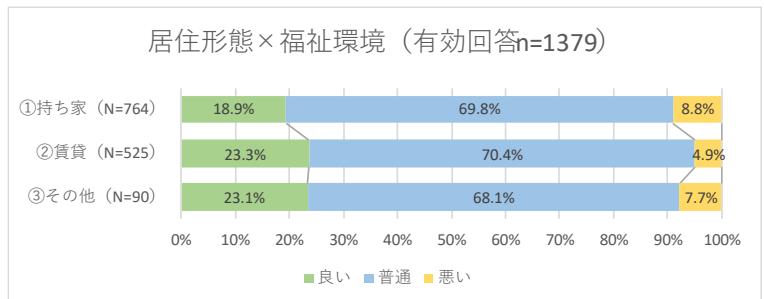
	良い	普通	悪い
① 1年未満 (N=57)	15	40	2
② 1～5年未満 (N=295)	66	217	12
③ 5～10年未満 (N=235)	64	161	10
④ 10～20年未満 (N=268)	48	195	25
⑤ 20年以上 (N=522)	100	369	53



【所見】
居住年数で見ると、居住年数が長いほど「悪い」の割合が多くなっている。

■ × 居住形態

	良い	普通	悪い
① 持ち家 (N=764)	148	547	69
② 賃貸 (N=525)	124	375	26
③ その他 (N=90)	21	62	7

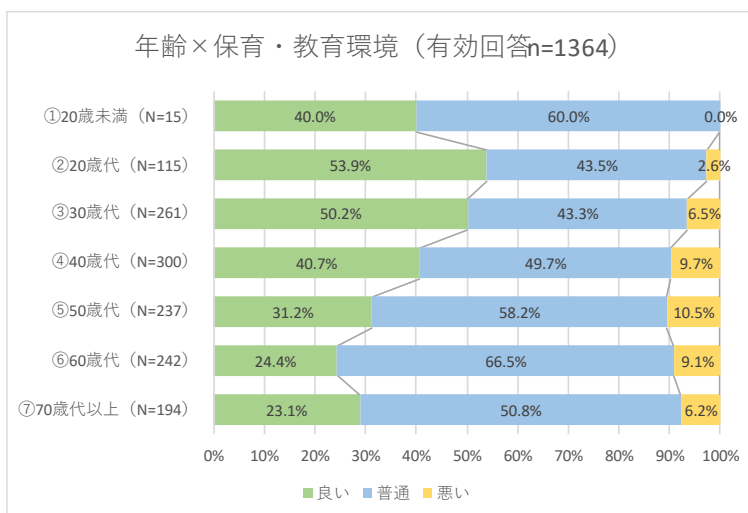


【所見】
居住形態で見ると、持ち家で若干「良い」の割合が低い、極端な差は見られない。

i) 問1-保育・教育環境×年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態(全て無回答を除く)

■ ×年齢

	良い	普通	悪い
①20歳未満 (N=15)	6	9	0
②20歳代 (N=115)	62	50	3
③30歳代 (N=261)	131	113	17
④40歳代 (N=300)	122	149	29
⑤50歳代 (N=237)	74	138	25
⑥60歳代 (N=242)	59	161	22
⑦70歳代以上 (N=194)	56	123	15

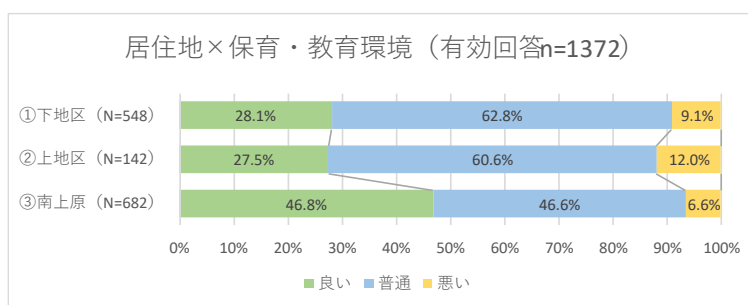


【所見】

年代別にみると20代や30代の評価が高く年代が上がるごとに「良い」の割合が低くなっている。アンケートの他の項目についての回答も加味して分析すると、20～30代が多く利用する保育面での環境は評価が高いが、中学生、高校生世代の子どもも持つ40～50代において教育面での評価が下がっていることが一因でないかと考えられる。

■ ×居住地

	良い	普通	悪い
①下地区 (N=548)	154	344	50
②上地区 (N=142)	39	86	17
③南上原 (N=682)	319	318	45

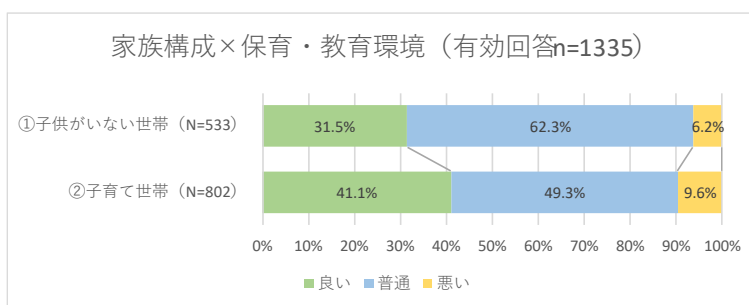


【所見】

居住地別にみると、南上原の評価が圧倒的に高い。これは南上原に若い世代が比較的多いことと、保育園～小学校(南小)までが地区内に立地しており通園、通学面で利便性が高いことが要因として考えられる。また上地区の「悪い」の評価が他地区より多いのは、南上原を除く上地区に小学校がなく、中学校への通学にも不便であるという事が要因ではないか。

■ × 家族構成

	良い	普通	悪い
①子供がいない世帯 (N=533)	168	332	33
②子育て世帯 (N=802)	330	395	77

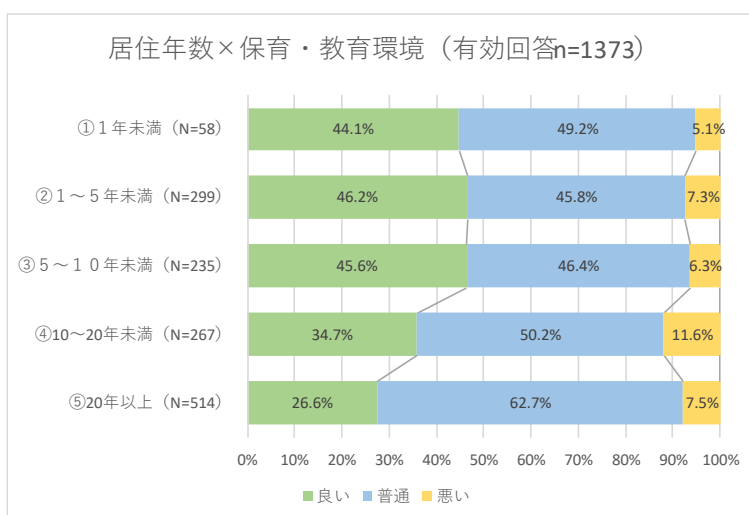


【所見】

家族構成で見ると、「良い」の回答率は子育て世帯で高いが、同時に「悪い」の回答率も子育て世帯で高い。実際の子育て世帯におけるニーズを詳細に把握する必要がある。

■ × 居住年数

	良い	普通	悪い
①1年未満 (N=58)	26	29	3
②1～5年未満 (N=299)	139	138	22
③5～10年未満 (N=235)	109	111	15
④10～20年未満 (N=267)	96	139	32
⑤20年以上 (N=514)	141	333	40

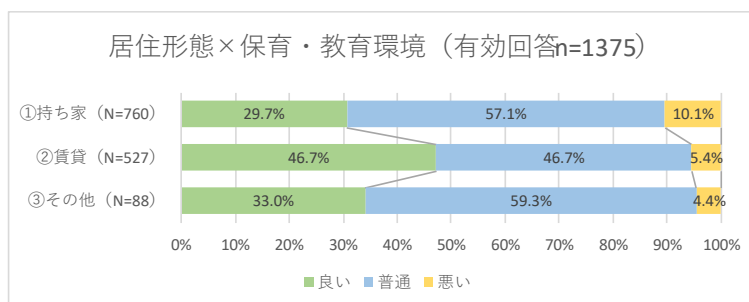


【所見】

居住年数で見ると、年数が短いほど「良い」の回答率が高い。これは南上原において新規住民（居住年数が短い世帯）が多いためと考えられる。

■ × 居住形態

	良い	普通	悪い
①持ち家 (N=760)	233	448	79
②賃貸 (N=527)	249	249	29
③その他 (N=88)	30	54	4



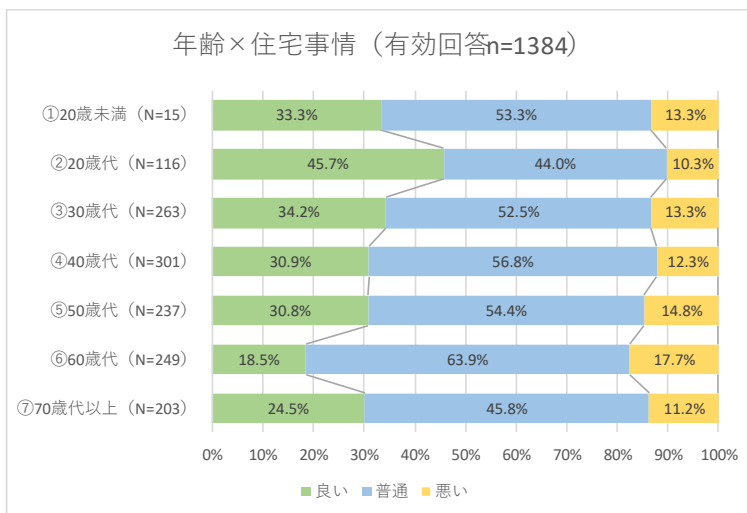
【所見】

居住形態で見ると、賃貸居住者の評価が高い。これは南上原において賃貸住宅が多いためであると考えられる。

i) 問1-住宅事情×年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態(全て無回答を除く)

■ ×年齢

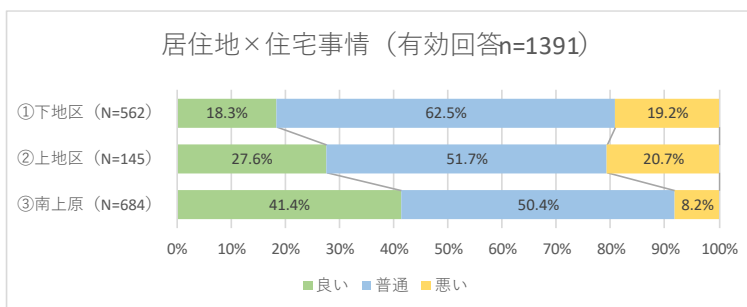
	良い	普通	悪い
①20歳未満 (N=15)	5	8	2
②20歳代 (N=116)	53	51	12
③30歳代 (N=263)	90	138	35
④40歳代 (N=301)	93	171	37
⑤50歳代 (N=237)	73	129	35
⑥60歳代 (N=249)	46	159	44
⑦70歳代以上 (N=203)	61	114	28



【所見】
年代別にみると20代の評価が特に高く、60代の評価が特に低い。

■ ×居住地

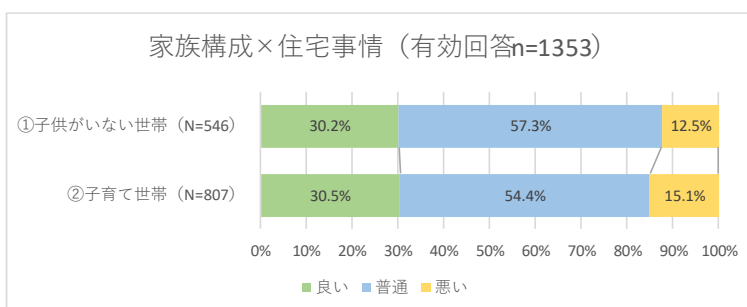
	良い	普通	悪い
①下地区 (N=562)	103	351	108
②上地区 (N=145)	40	75	30
③南上原 (N=684)	283	345	56



【所見】
居住地別にみると、南上原の評価が高い。下地区は「良い」の割合と「悪い」の割合がほぼ同程度であり、上地区は若干であるが「良い」の評価が多い。市街化区域とそれ以外の区域における住宅の建築要件などにより、差が出ているものと考えられる。

■ × 家族構成

	良い	普通	悪い
①子供がいない世帯 (N=546)	165	313	68
②子育て世帯 (N=807)	246	439	122

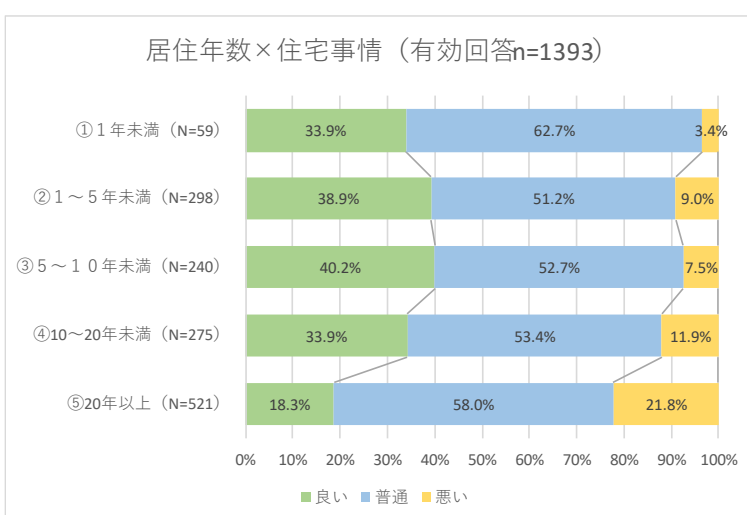


【所見】

家族構成でみると、子育て世代の方が若干「悪い」の回答が多いが、大きな差はみられない。

■ × 居住年数

	良い	普通	悪い
①1年未満 (N=59)	20	37	2
②1～5年未満 (N=298)	117	154	27
③5～10年未満 (N=240)	96	126	18
④10～20年未満 (N=275)	94	148	33
⑤20年以上 (N=521)	97	308	116

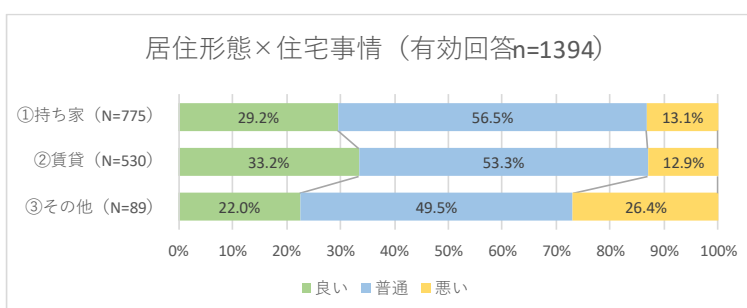


【所見】

居住年数でみると、20年以上居住している人の評価が特に低い。村に長く住んでいる人であるほど持ち家である可能性が高いので、その点と合わせて評価する必要がある。

■ × 居住形態

	良い	普通	悪い
①持ち家 (N=775)	229	443	103
②賃貸 (N=530)	177	284	69
③その他 (N=89)	20	45	24



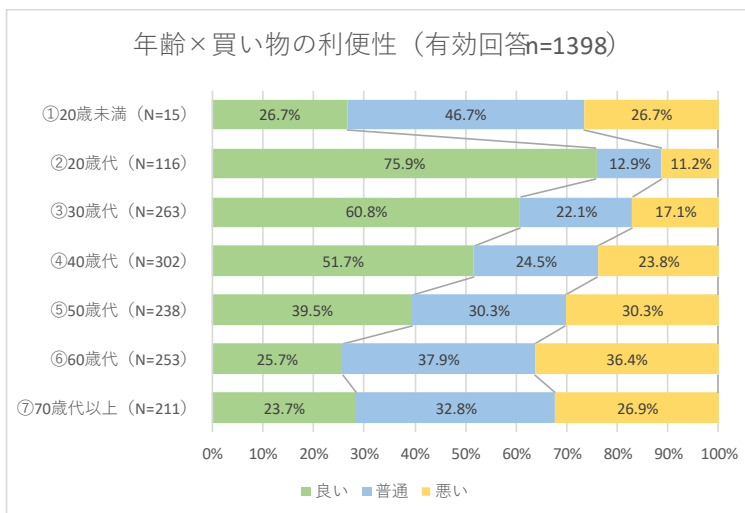
【所見】

居住形態でみると、その他において「悪い」と回答した人が多い。その他には「社宅」「寮」などの他に「親の家」が含まれているため、居住地の立地の他に、家そのものに対する評価も入っている可能性がある。

i) 問1-買い物の利便性×年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態(全て無回答を除く)

■ × 年齢

	良い	普通	悪い
①20歳未満 (N=15)	4	7	4
②20歳代 (N=116)	88	15	13
③30歳代 (N=263)	160	58	45
④40歳代 (N=302)	156	74	72
⑤50歳代 (N=238)	94	72	72
⑥60歳代 (N=253)	65	96	92
⑦70歳代以上 (N=211)	60	83	68

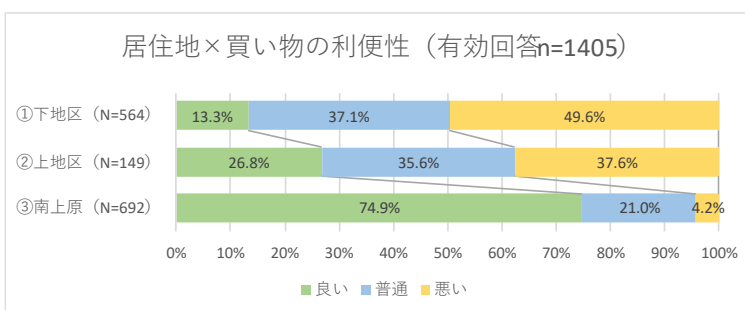


【所見】

年代別にみると、各年代での評価に大きな差がある。年代が上がるにつれて「悪い」評価が大きくなっている。買い物をするための移動手段等も加味した結果だと考えられる。

■ × 居住地

	良い	普通	悪い
①下地区 (N=564)	75	209	280
②上地区 (N=149)	40	53	56
③南上原 (N=692)	518	145	29

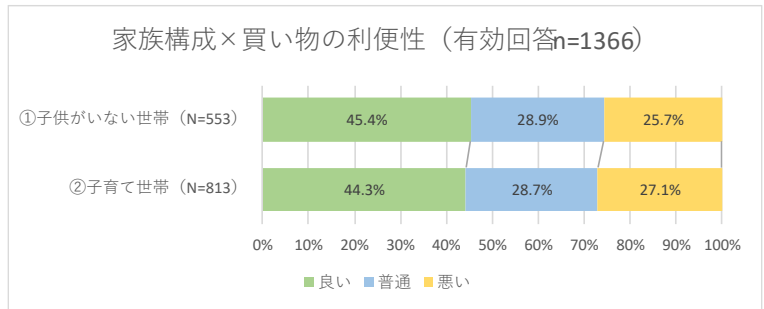


【所見】

居住地別にみると、評価に大きな差がある。南上原については特に評価が高いが、下地区では半数が「悪い」と回答している。特に日常の買い物について評価の差が大きいと考えられる。

■ × 家族構成

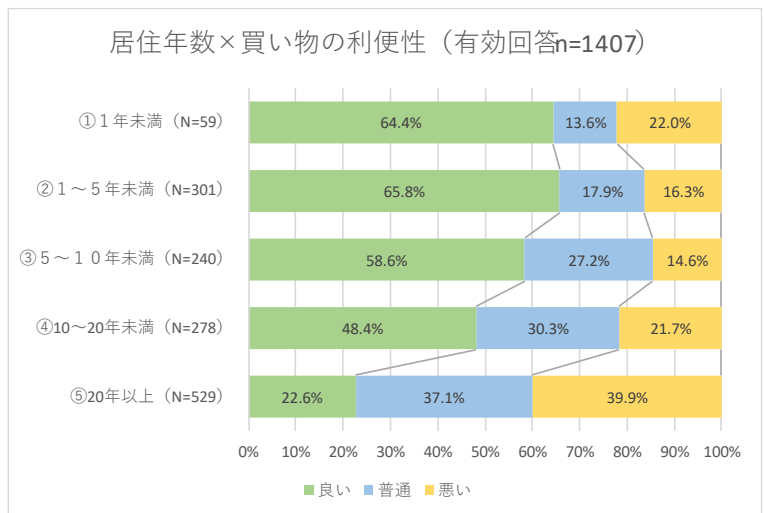
	良い	普通	悪い
①子供がいない世帯 (N=553)	251	160	142
②子育て世帯 (N=813)	360	233	220



【所見】
家族構成でみると、大きな差は見られなかった。

■ × 居住年数

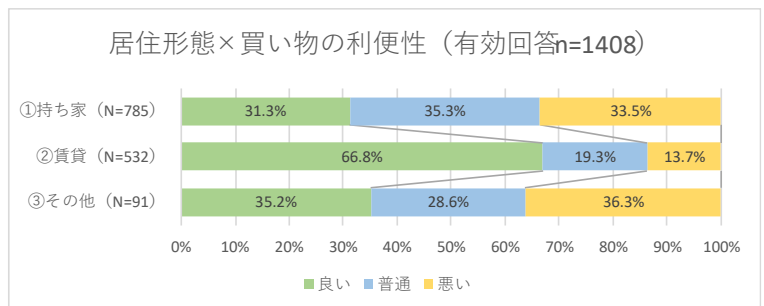
	良い	普通	悪い
①1年未満 (N=59)	38	8	13
②1～5年未満 (N=301)	198	54	49
③5～10年未満 (N=240)	140	65	35
④10～20年未満 (N=278)	134	84	60
⑤20年以上 (N=529)	120	197	212



【所見】
居住年数でみると、年数が長くなるにしたがって「悪い」評価が増加している。前頁で評価が高かった南上原居住者は村全体でみると居住年数が短い人が多いため、関連があると考えられる。また、居住年数が長いほど高齢である可能性も高いので、移動手段の確保などの問題もあると考えられる。

■ × 居住形態

	良い	普通	悪い
①持ち家 (N=785)	245	277	263
②賃貸 (N=532)	356	103	73
③その他 (N=91)	32	26	33

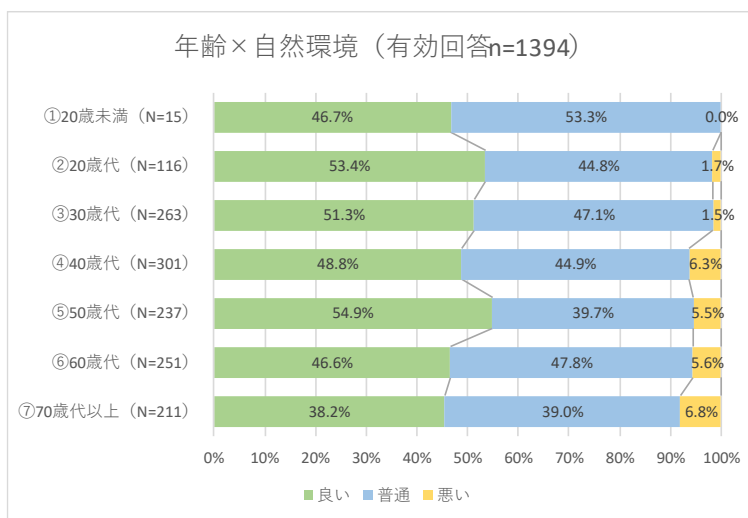


【所見】
居住形態でみると、賃貸での評価が高い。これは南上原における評価が高かったことと関連すると考えられる。

i) 問1-自然環境×年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態(全て無回答を除く)

■ ×年齢

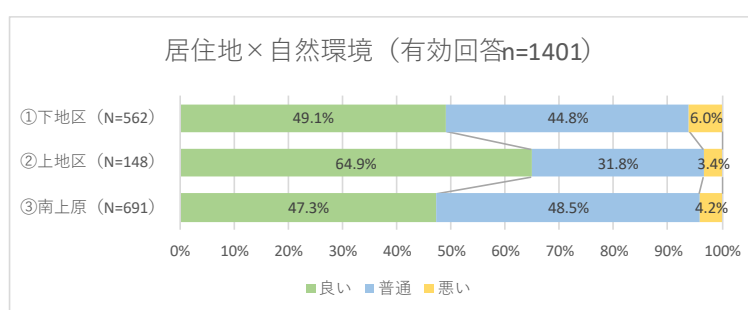
	良い	普通	悪い
①20歳未満 (N=15)	7	8	0
②20歳代 (N=116)	62	52	2
③30歳代 (N=263)	135	124	4
④40歳代 (N=301)	147	135	19
⑤50歳代 (N=237)	130	94	13
⑥60歳代 (N=251)	117	120	14
⑦70歳代以上 (N=211)	96	98	17



【所見】
年代別にみると、若干ではあるが年齢が上がるにしたがって「悪い」の回答が多くなっている。

■ ×居住地

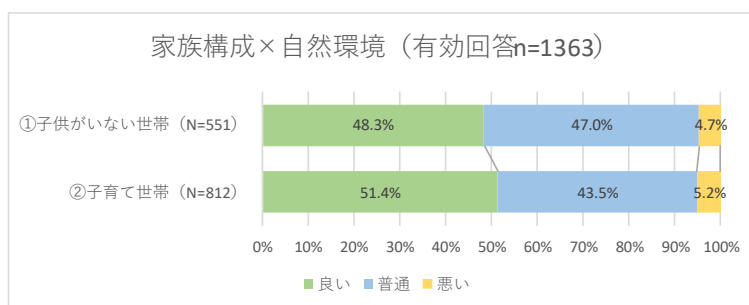
	良い	普通	悪い
①下地区 (N=562)	276	252	34
②上地区 (N=148)	96	47	5
③南上原 (N=691)	327	335	29



【所見】
居住地別にみると、上地区で「良い」の割合が高い。斜面緑地や県営中城公園など緑豊かな環境が要因のひとつだと考えられる。

■ × 家族構成

	良い	普通	悪い
①子供がいない世帯 (N=551)	266	259	26
②子育て世帯 (N=812)	417	353	42

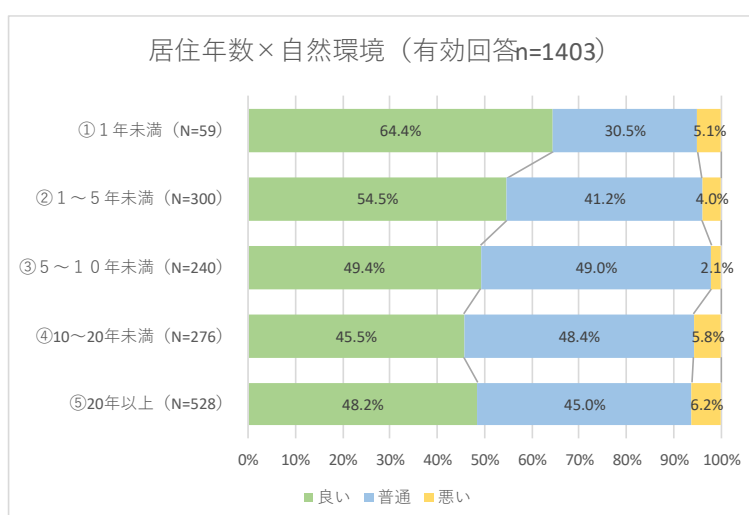


【所見】

家族構成で見ると、子育て世帯の方が若干「良い」の割合が高いが、大きな差はないと考えられる。

■ × 居住年数

	良い	普通	悪い
①1年未満 (N=59)	38	18	3
②1～5年未満 (N=300)	164	124	12
③5～10年未満 (N=240)	118	117	5
④10～20年未満 (N=276)	126	134	16
⑤20年以上 (N=528)	256	239	33

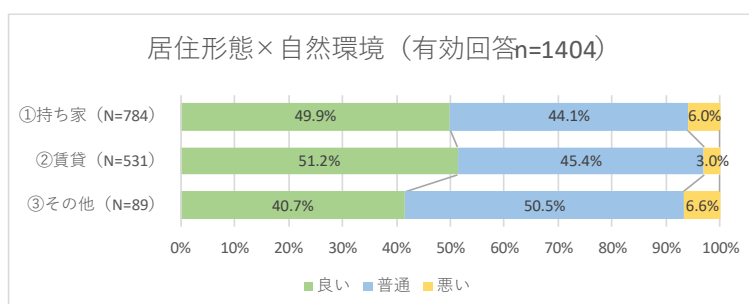


【所見】

居住年数で見ると、年数が長い方が「良い」の割合が低くなっている。

■ × 居住形態

	良い	普通	悪い
①持ち家 (N=784)	391	346	47
②賃貸 (N=531)	273	242	16
③その他 (N=89)	37	46	6



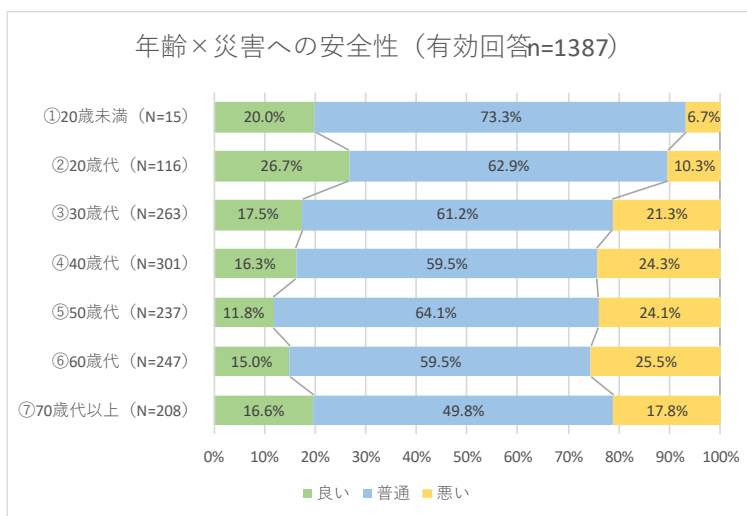
【所見】

居住形態で見ると、若干ではあるが賃貸の方が「良い」と答えた割合が高かった。

i) 問1-災害への安全性×年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態(全て無回答を除く)

■ ×年齢

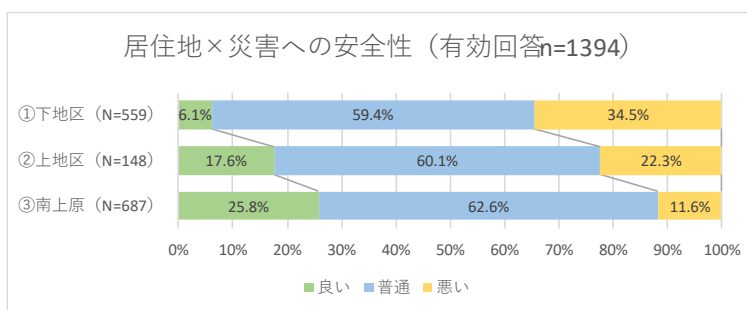
	良い	普通	悪い
①20歳未満 (N=15)	3	11	1
②20歳代 (N=116)	31	73	12
③30歳代 (N=263)	46	161	56
④40歳代 (N=301)	49	179	73
⑤50歳代 (N=237)	28	152	57
⑥60歳代 (N=247)	37	147	63
⑦70歳代以上 (N=208)	41	123	44



【所見】
 年代別にみると、20代以下は「良い」の方が「悪い」より多いが、30代以上は「悪い」の割合が増えている。

■ ×居住地

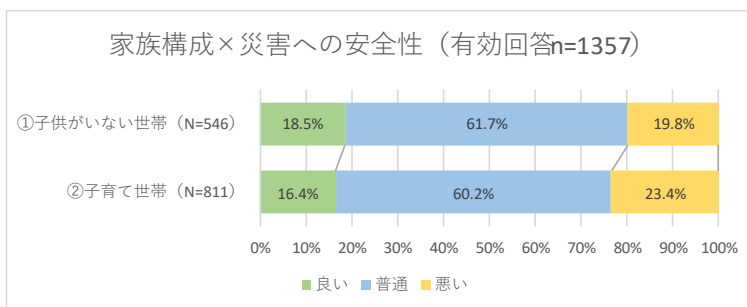
	良い	普通	悪い
①下地区 (N=559)	34	332	193
②上地区 (N=148)	26	89	33
③南上原 (N=687)	177	430	80



【所見】
 居住地別にみると、下地区が最も「悪い」の割合が多い。これは津波の被害を想定してのことであると考えられる。

■ × 家族構成

	良い	普通	悪い
① 子供がいない世帯 (N=546)	101	337	108
② 子育て世帯 (N=811)	133	488	190

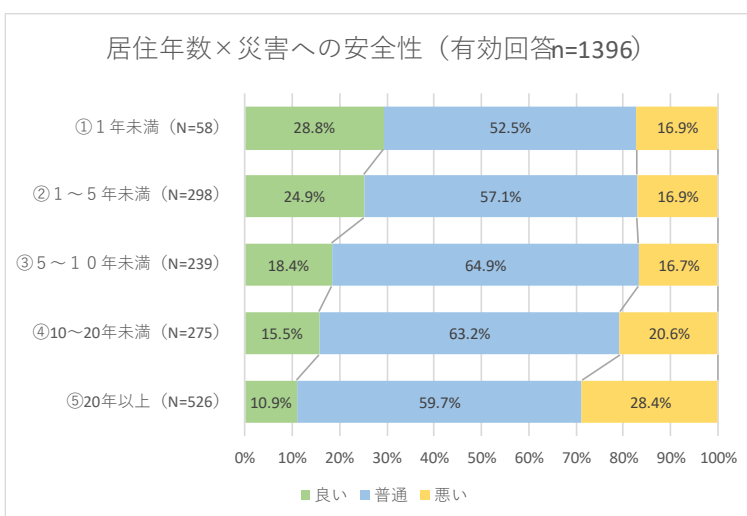


【所見】

家族構成で見ると、子育て世帯の方が若干ではあるが悪い評価に傾いている。

■ × 居住年数

	良い	普通	悪い
① 1年未満 (N=58)	17	31	10
② 1～5年未満 (N=298)	75	172	51
③ 5～10年未満 (N=239)	44	155	40
④ 10～20年未満 (N=275)	43	175	57
⑤ 20年以上 (N=526)	58	317	151

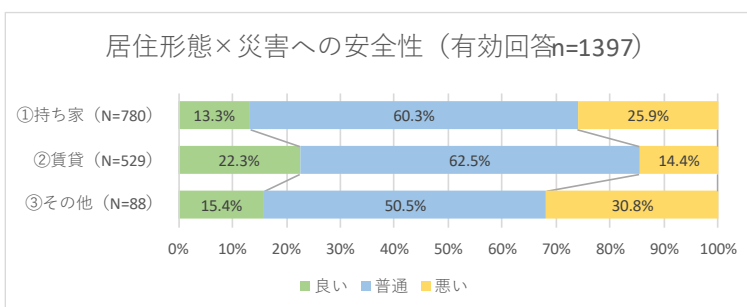


【所見】

居住年数で見ると、居住年数が長くなるにつれて「良い」の割合が減少し「悪い」の割合が増加している。村に長年住むことで、村の災害対策や実際の災害に直面しての評価だと考えられる。

■ × 居住形態

	良い	普通	悪い
① 持ち家 (N=780)	104	473	203
② 賃貸 (N=529)	119	333	77
③ その他 (N=88)	14	46	28



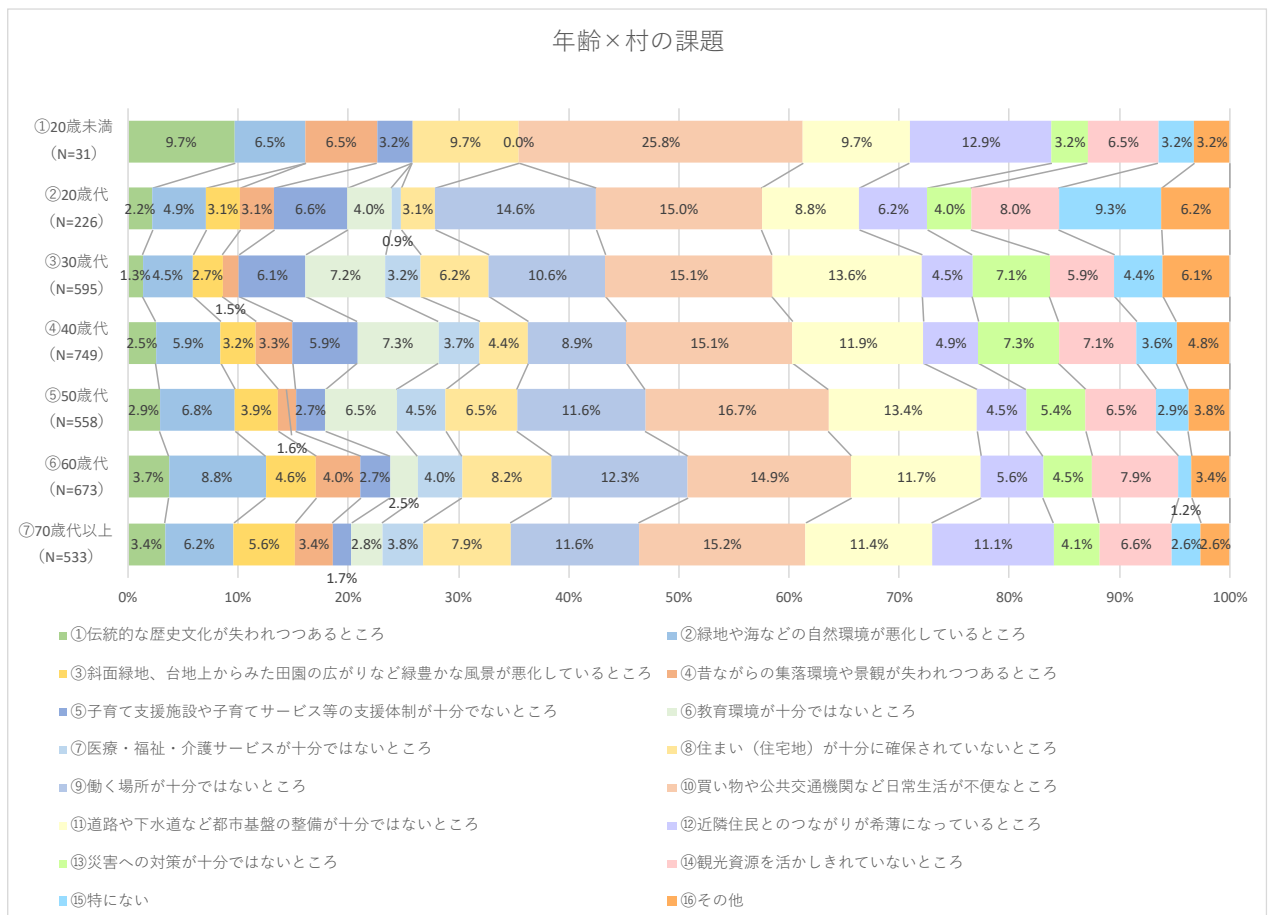
【所見】

居住形態で見ると、賃貸の方が「良い」の割合が高い。これは賃貸住宅が上地区及び南上原に多く立地していることが要因と考えられる。

ii) 問2-村の課題×年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態(全て無回答を除く)

■ ×年齢

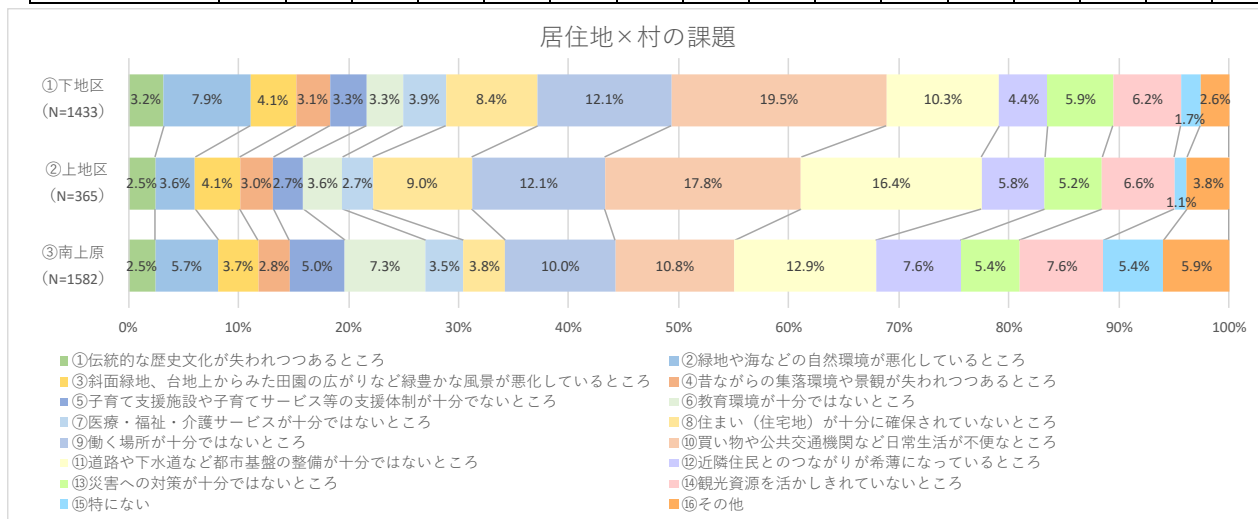
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
①20歳未満 (N=31)	3	2	0	2	1	0	0	3	0	8	3	4	1	2	1	1
②20歳代 (N=226)	5	11	7	7	15	9	2	7	33	34	20	14	9	18	21	14
③30歳代 (N=595)	8	27	16	9	36	43	19	37	63	90	81	27	42	35	26	36
④40歳代 (N=749)	19	44	24	25	44	55	28	33	67	113	89	37	55	53	27	36
⑤50歳代 (N=558)	16	38	22	9	15	36	25	36	65	93	75	25	30	36	16	21
⑥60歳代 (N=673)	25	59	31	27	18	17	27	55	83	100	79	38	30	53	8	23
⑦70歳代以上 (N=533)	18	33	30	18	9	15	20	42	62	81	61	59	22	35	14	14



【所見】
 「働く場所」「買い物や公共交通機関などが不便」「都市基盤の整備が不十分」の3つがどの世代においても割合が高い。また20代～40代の若い世代では「子育て等の支援体制」「教育環境」など子育てに関わるものの割合が他の世代に比べて多く、50代以上の年代では「自然環境の悪化」「住まいが十分に確保されていない」などの割合が高くなっている。なお20歳未満については母数が少ないため参考程度にみる。

■ × 居住地

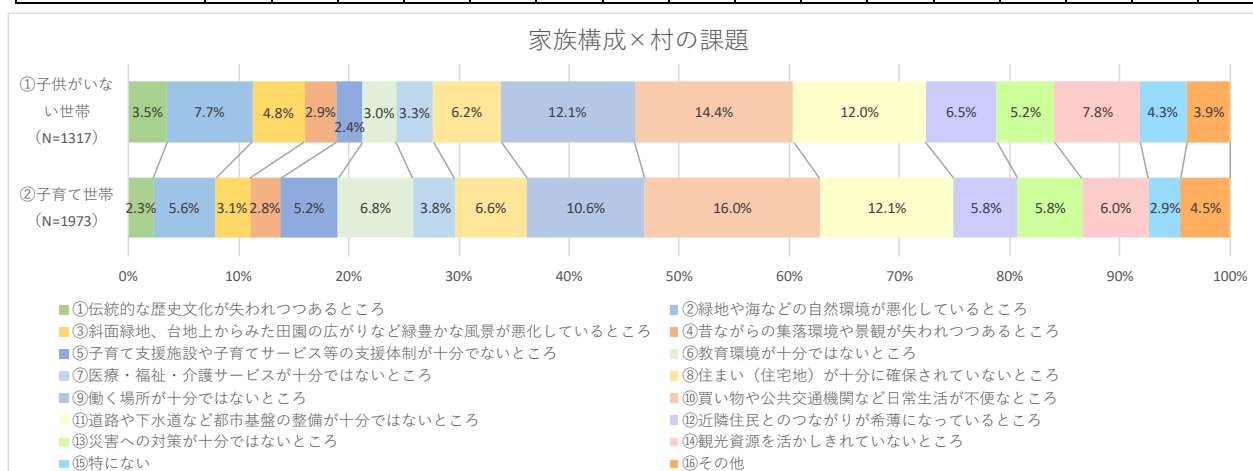
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
①下地区 (N=1433)	46	113	59	44	48	47	56	120	174	280	147	63	85	89	25	37
②上地区 (N=365)	9	13	15	11	10	13	10	33	44	65	60	21	19	24	4	14
③南上原 (N=1582)	39	90	58	45	79	116	55	60	158	171	204	121	85	121	86	94



【所見】南上原については、他地区に比べて比較的均等になっており、地区としての課題は見えにくい。一方で下地区では「買い物や公共交通機関が不便」が多く、上地区では「買い物や公共交通機関が不便」「都市基盤の整備が不十分」が多くなっている。

■ × 家族構成

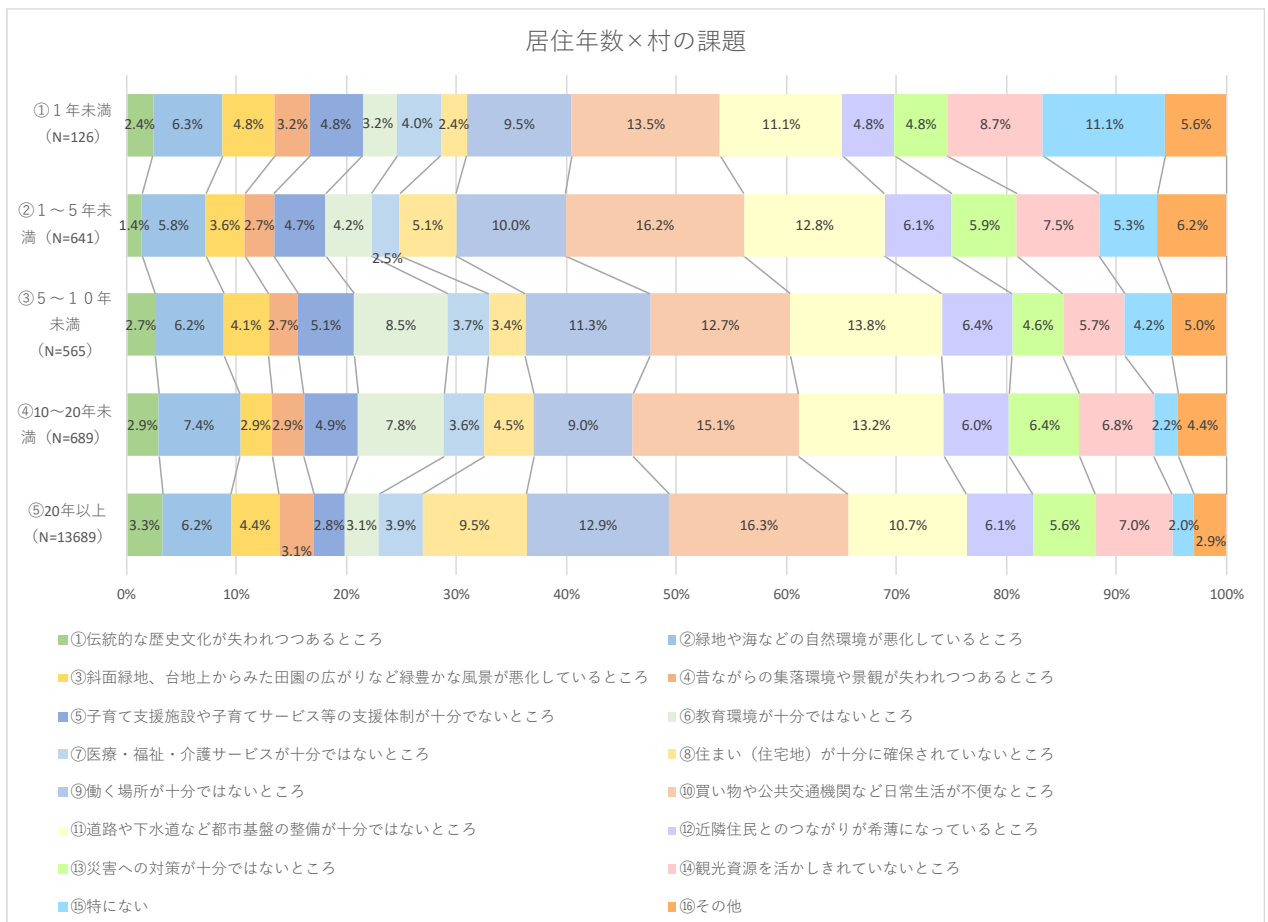
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
①子供がいない世帯 (N=1317)	46	102	63	38	31	40	44	81	160	190	158	85	69	103	56	51
②子育て世帯 (N=1973)	45	110	62	55	103	135	74	130	210	315	239	115	115	119	58	88



【所見】子育て世帯においては「子育て支援体制」「教育環境」が子どものいない世帯より割合が高かったが、その他はあまり大きな差は見なかった。

■ × 居住年数

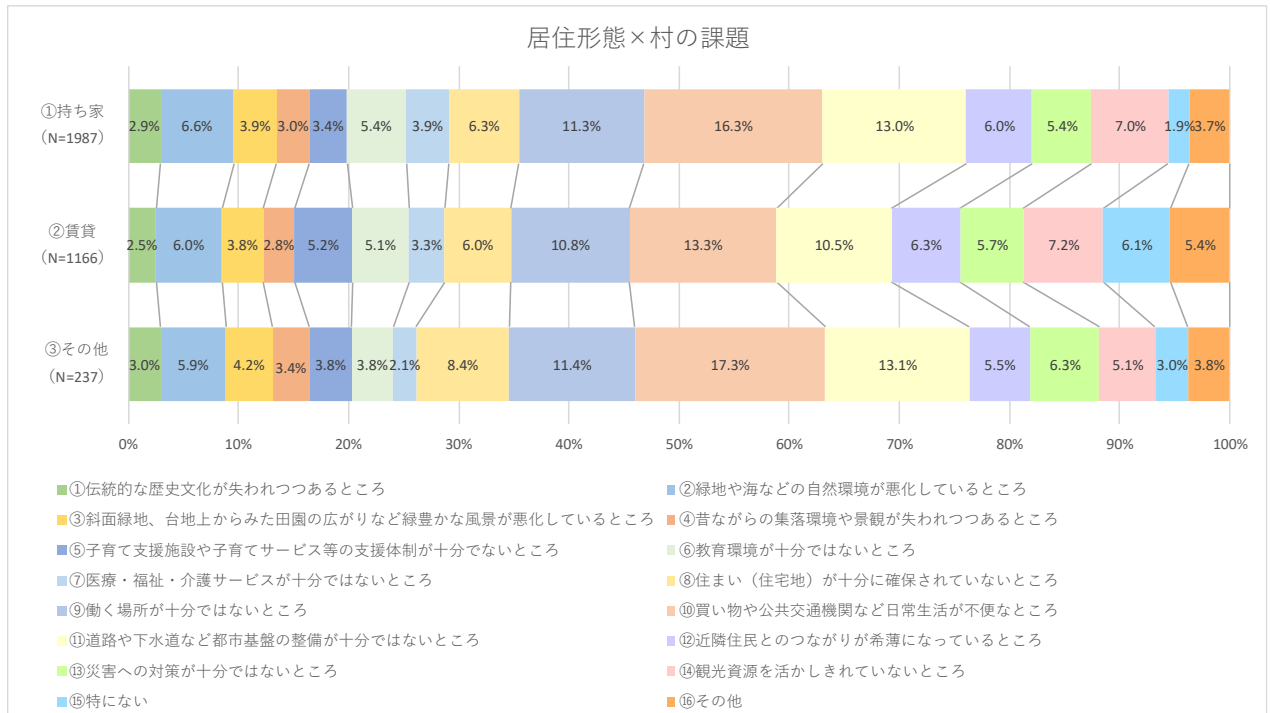
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
① 1年未満 (N=126)	3	8	6	4	6	4	5	3	12	17	14	6	6	11	14	7
② 1～5年未 満 (N=641)	9	37	23	17	30	27	16	33	64	104	82	39	38	48	34	40
③ 5～10年 未満(N=565)	15	35	23	15	29	48	21	19	64	72	78	36	26	32	24	28
④ 10～20年 未満(N=689)	20	51	20	20	34	54	25	31	62	104	91	41	44	47	15	30
⑤ 20年以上 (N=13689)	45	85	60	43	38	43	54	130	177	223	147	83	77	96	27	40



【所見】
 居住年数に関わらず「買い物や公共交通が不便」「都市基盤の整備が不十分」が多くなっている。また、居住年数が長くなるにつれ「特にない」の割合が減少しており、住み続ける中で見えてくる課題があると考えられる。20年以上居住している人については「住まい（住宅地）の確保」の割合も他と比べて高かった。

■ × 居住形態

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
①持ち家 (N=1987)	58	132	78	59	67	107	78	126	225	323	259	119	107	139	37	73
②賃貸 (N=1166)	29	70	44	33	61	60	38	70	126	155	122	73	67	84	71	63
③その他 (N=237)	7	14	10	8	9	9	5	20	27	41	31	13	15	12	7	9



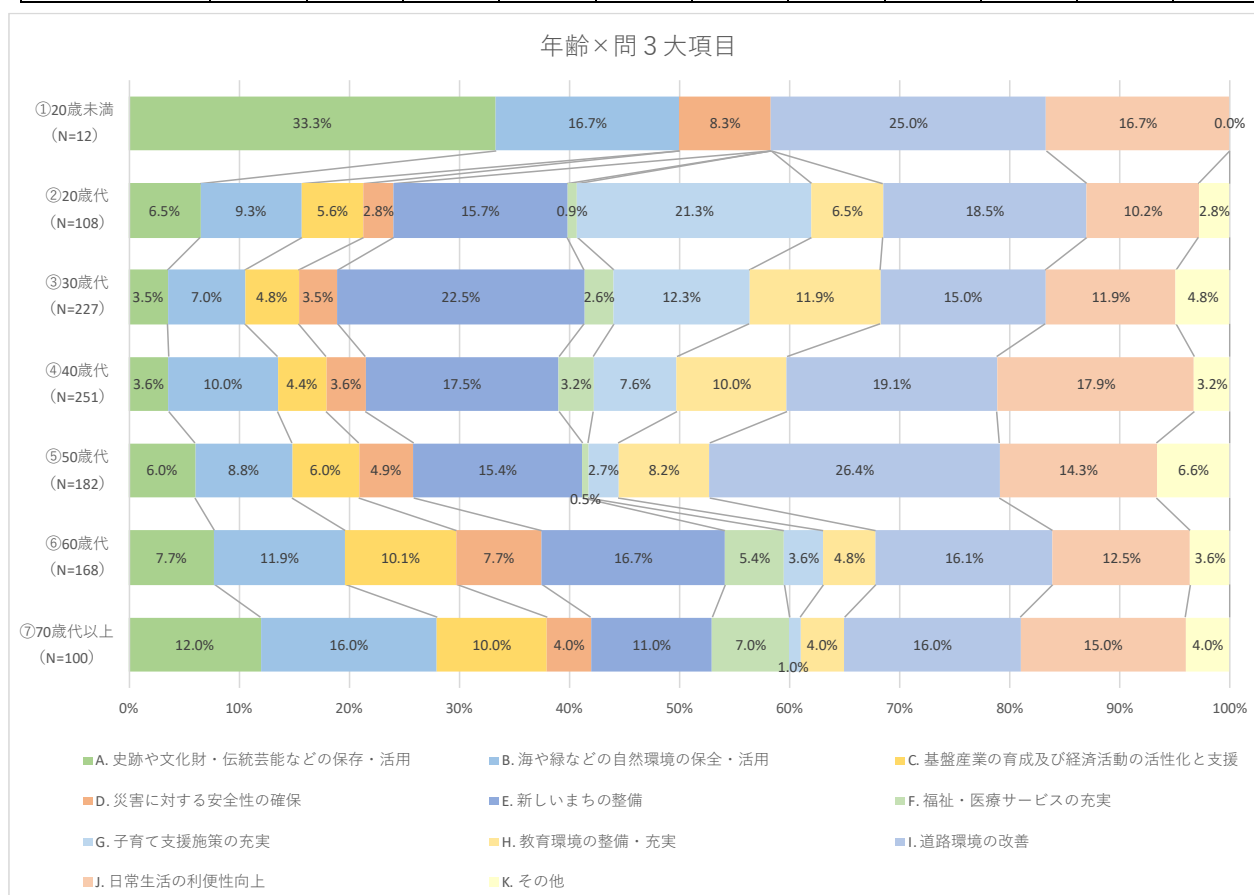
【所見】

まず前提として居住形態の「③その他」の内訳のうち約8割は「親の家」である。そのため「③その他」については「持ち家の戸建て」の割合が高いことが想定される。それを踏まえてみると、「持ち家」と「その他」については同じような傾向がみられる。また賃貸住宅については「買い物や公共交通機関が不便」の割合が他に比べて低くなっているが、これは賃貸居住者は南上原に多いことが要因と考えられる。

iii) 問3-村の将来イメージ（大項目）×年齢、居住地、家族構成、居住年数、居住形態(全て無回答を除く)

■ ×年齢

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
①20歳未満 (N=12)	4	2	0	1	0	0	0	0	3	2	0
②20歳代 (N=108)	7	10	6	3	17	1	23	7	20	11	3
③30歳代 (N=227)	8	16	11	8	51	6	28	27	34	27	11
④40歳代 (N=251)	9	25	11	9	44	8	19	25	48	45	8
⑤50歳代 (N=182)	11	16	11	9	28	1	5	15	48	26	12
⑥60歳代 (N=168)	13	20	17	13	28	9	6	8	27	21	6
⑦70歳代以上 (N=100)	12	16	10	4	11	7	1	4	16	15	4

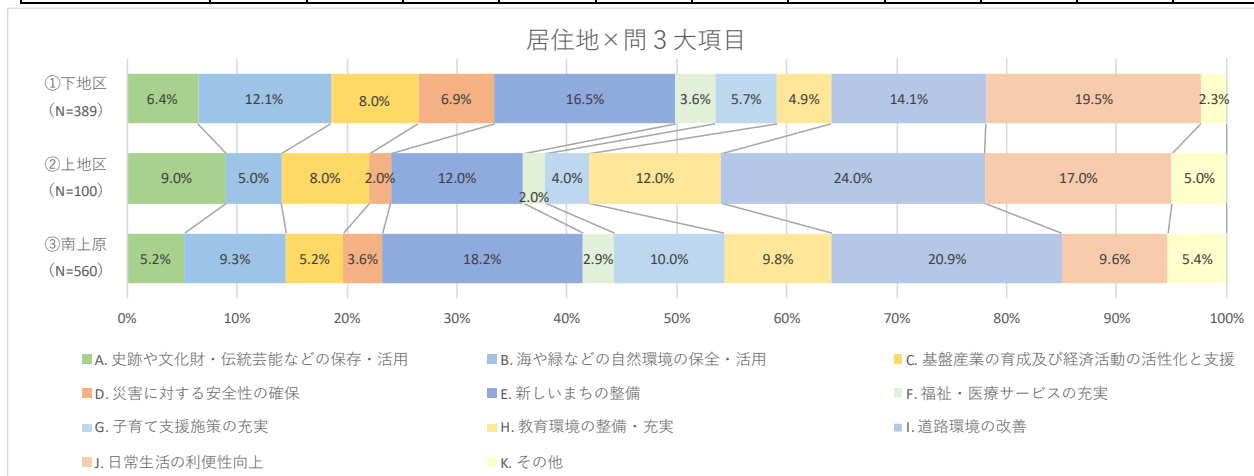


【所見】

「史跡や文化財の保存継承」「自然環境の保全」「産業育成、経済活動の活発化」などは年代が上がるにつれて割合が増加している。逆に「子育て支援」「教育環境の整備」などは年代が上がるにつれて減少している。また前年代通して多かったのは「道路環境の改善」「日常生活の利便性向上」であった。なお20代は回答者数が少ないので参考程度とする。

■ × 居住地

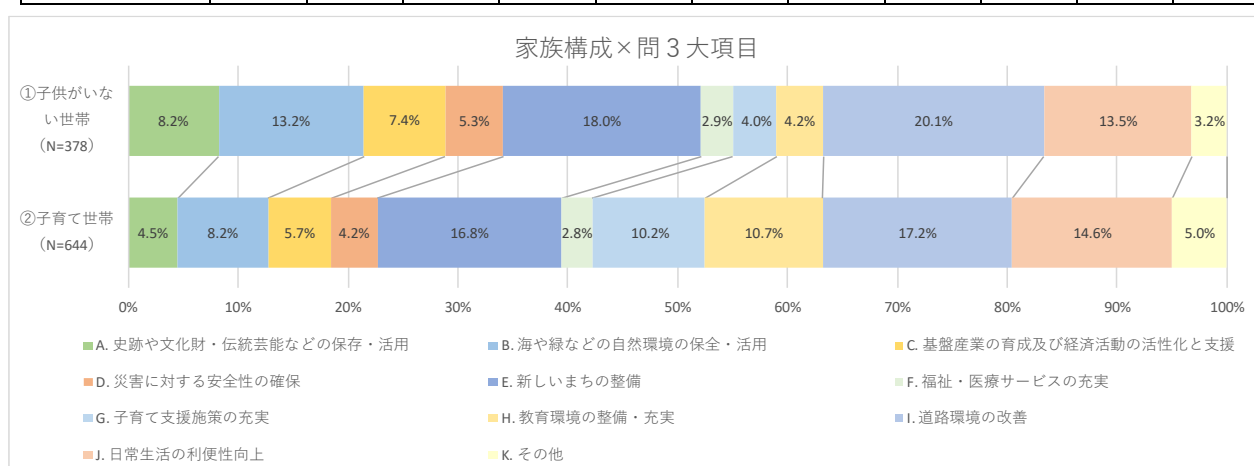
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
①下地区 (N=389)	25	47	31	27	64	14	22	19	55	76	9
②上地区 (N=100)	9	5	8	2	12	2	4	12	24	17	5
③南上原 (N=560)	29	52	29	20	102	16	56	55	117	54	30



【所見】上地区については他の地区と比べて「史跡や文化財の保存活用」「教育環境の整備」「道路環境の整備」の割合が高く、「自然環境の保全活用」「災害に対する安全性」は低くなっている。上地区は中城城跡を有し、斜面緑地等により村の中でも緑が多い地区であること、上地区には小中学校がないこと等、下地区、南上原との環境の違いにより回答に差が出たと考えられる。

■ × 家族構成

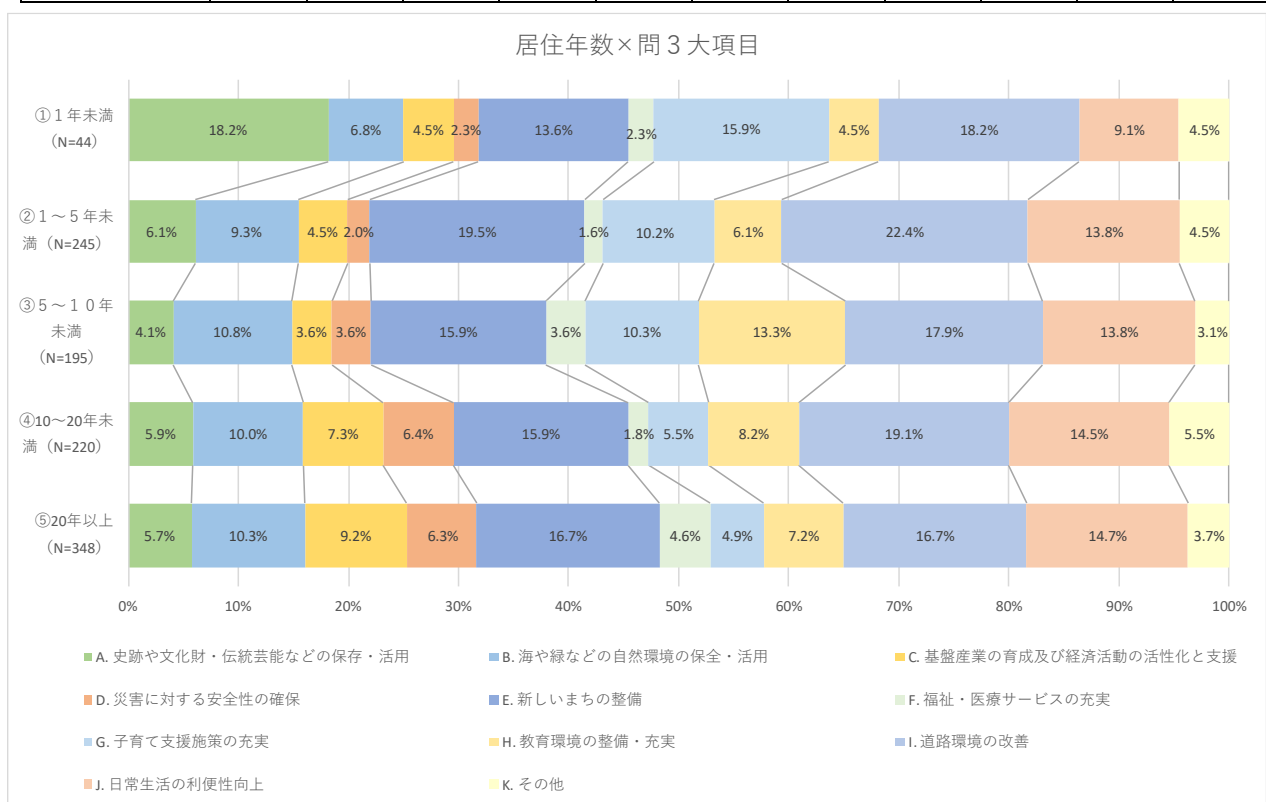
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
①子供がいない世帯 (N=378)	31	50	28	20	68	11	15	16	76	51	12
②子育て世帯 (N=644)	29	53	37	27	108	18	66	69	111	94	32



【所見】子育て世帯は子どものいない世帯に比べて「子育て支援の充実」「教育環境の整備」の回答割合が高い。

■ × 居住年数

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
① 1年未満 (N=44)	8	3	2	1	6	1	7	2	8	4	2
② 1～5年未 満 (N=245)	15	23	11	5	48	4	25	15	55	34	11
③ 5～10年 未満(N=195)	8	21	7	7	31	7	20	26	35	27	6
④ 10～20年 未満(N=220)	13	22	16	14	35	4	12	18	42	32	12
⑤ 20年以上 (N=348)	20	36	32	22	58	16	17	25	58	51	13

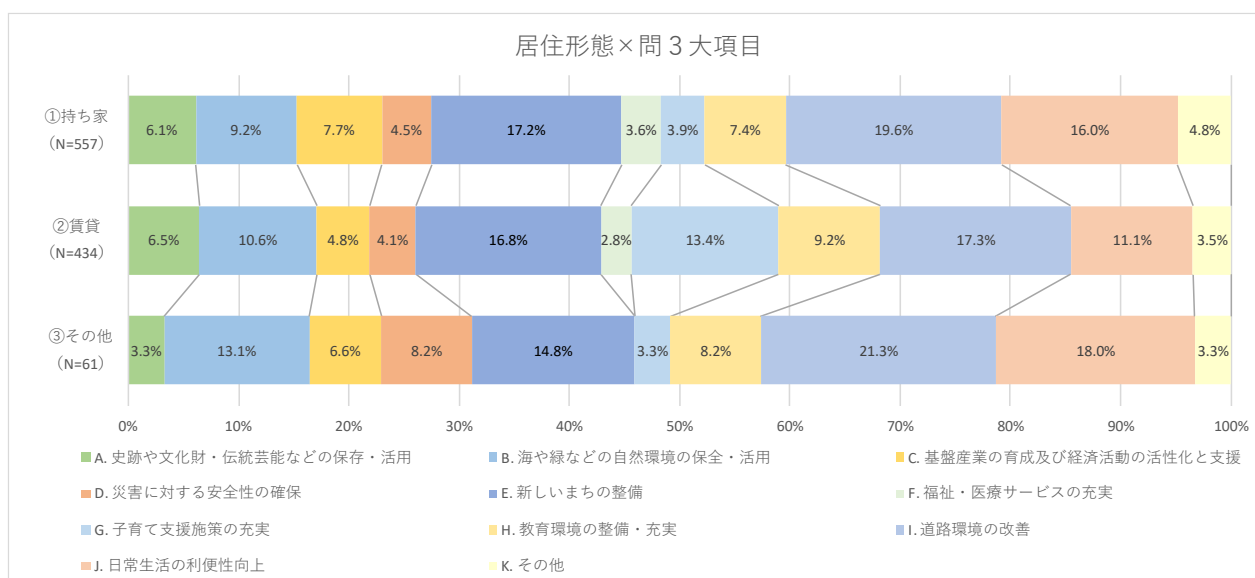


【所見】

1年未満において「史跡や文化財の保存活用」の割合が高くなっている。また5～10年未満において「教育環境の充実」が特に多くなっていることから、子育て世帯の居住年数は5～10年が一番多いと考えられる。また「産業の育成、経済活動の活性化」「災害に対する安全性の確保」「福祉医療サービス」などは居住年数が長くなるほど増加している。これについては居住年数が長くなるに比例して年齢も上がってくると想定されることから、それが要因の一つではないかと考えられる。

■ × 居住形態

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
①持ち家 (N=557)	34	51	43	25	96	20	22	41	109	89	27
②賃貸 (N=434)	28	46	21	18	73	12	58	40	75	48	15
③その他 (N=61)	2	8	4	5	9	0	2	5	13	11	2



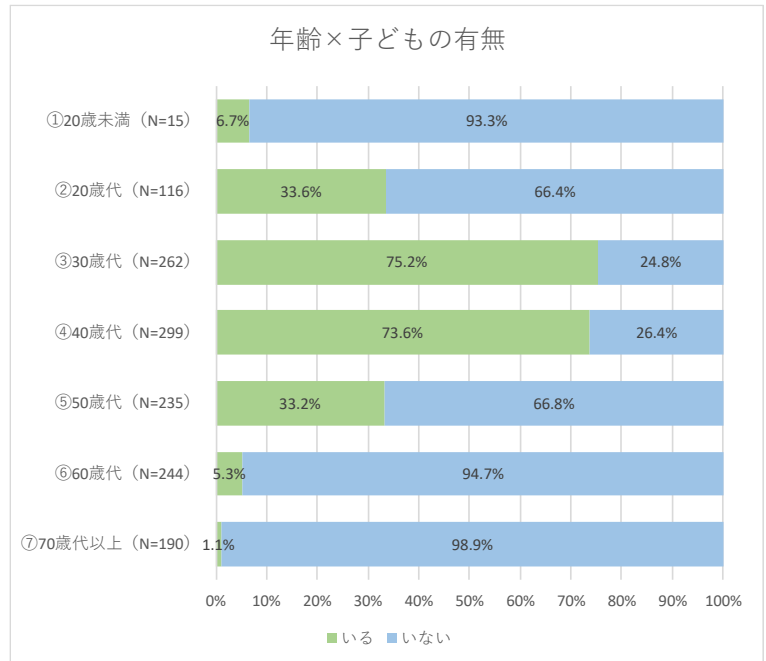
【所見】

居住形態でみると賃貸居住者において「子育て支援施策の充実」の割合が特に高く、「日常生活の利便性向上」が低い。これは子育て世帯に賃貸居住者が多いこと、賃貸住宅が南上原に多いことが要因と想定される。またその他において「自然環境の保全」「災害に対する安全性」の割合が他と比べて高くなっている。

iv) 問4-子どもの有無×年齢、居住地、居住形態(全て無回答を除く)

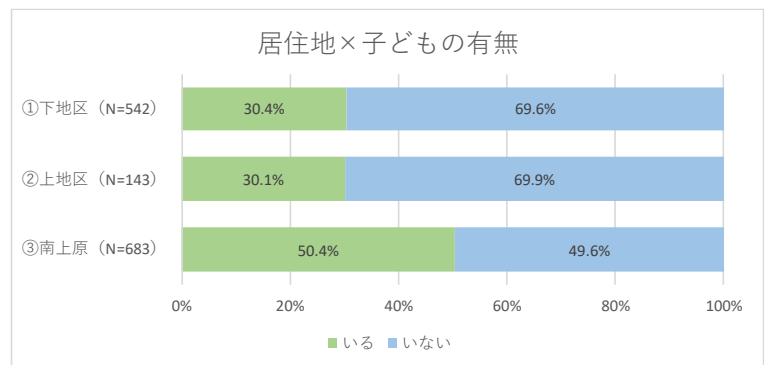
■ × 年齢

	いる	いない
①20歳未満 (N=15)	1	14
②20歳代 (N=116)	39	77
③30歳代 (N=262)	197	65
④40歳代 (N=299)	220	79
⑤50歳代 (N=235)	78	157
⑥60歳代 (N=244)	13	231
⑦70歳代以上 (N=190)	2	188



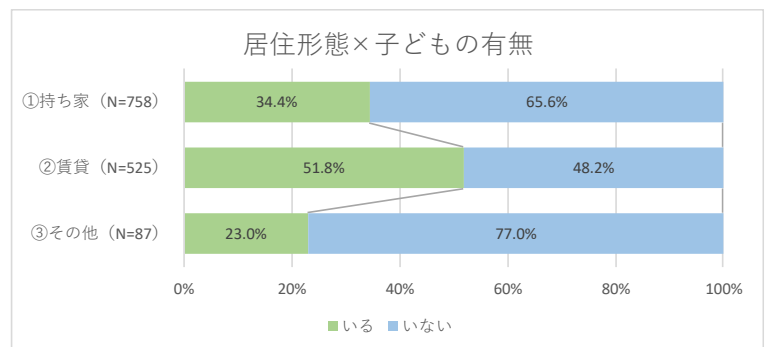
■ × 居住地

	いる	いない
①下地区 (N=542)	165	377
②上地区 (N=143)	43	100
③南上原 (N=683)	344	339



■ × 居住形態

	いる	いない
①持ち家 (N=758)	261	497
②賃貸 (N=525)	272	253
③その他 (N=87)	20	67



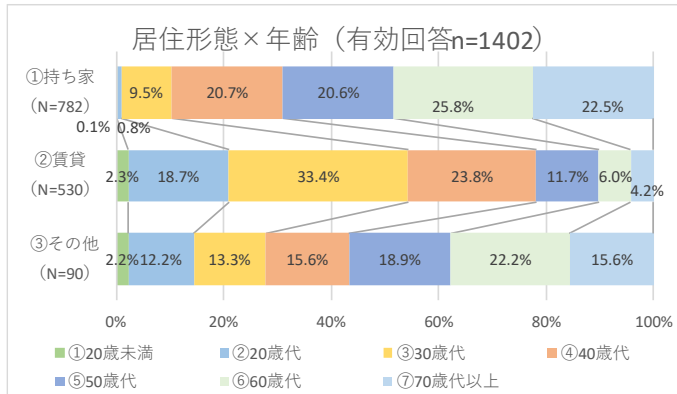
【所見】

子どもの有無をベースに見ていくと、18歳以下の子どもをもつ子育て世帯のボリュームゾーンは30代、40代である。また60歳以上も少数いるが、この一部は三世帯同居の孫にあたるものであると考えられる。居住地としては子育て世帯は南上原に多く、それに比例して賃貸居住者が多くなっている。

v) 居住形態×年齢、居住地、家族構成、居住年数(全て無回答を除く)

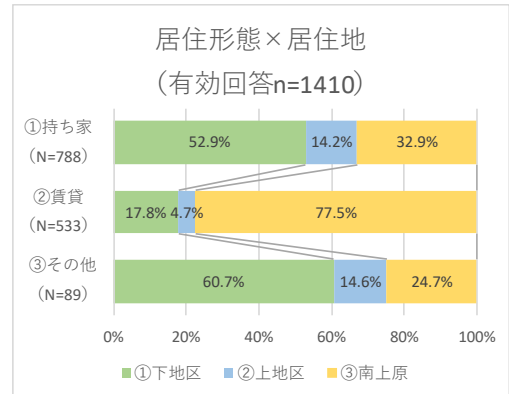
■ × 年齢

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
①持ち家 (N=782)	1	6	74	162	161	202	176
②賃貸 (N=530)	12	99	177	126	62	32	22
③その他 (N=90)	2	11	12	14	17	20	14



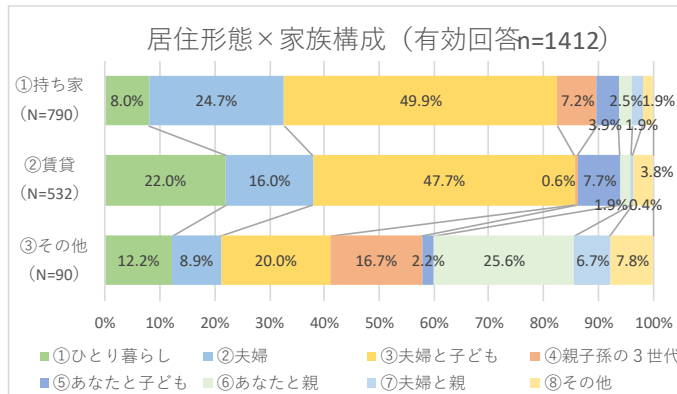
■ × 居住地

	①	②	③
①持ち家 (N=788)	417	112	259
②賃貸 (N=533)	95	25	413
③その他 (N=89)	54	13	22



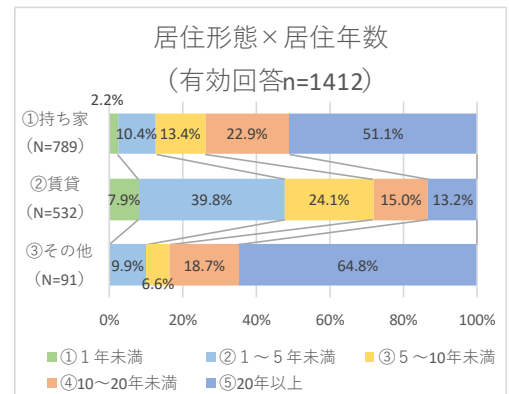
■ × 家族構成

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
①持ち家 (N=790)	63	195	394	57	31	20	15	15
②賃貸 (N=532)	117	85	254	3	41	10	2	20
③その他 (N=90)	11	8	18	15	2	23	6	7



■ × 居住年数

	①	②	③	④	⑤
①持ち家 (N=789)	17	82	106	181	403
②賃貸 (N=532)	42	212	128	80	70
③その他 (N=91)	0	9	6	17	59



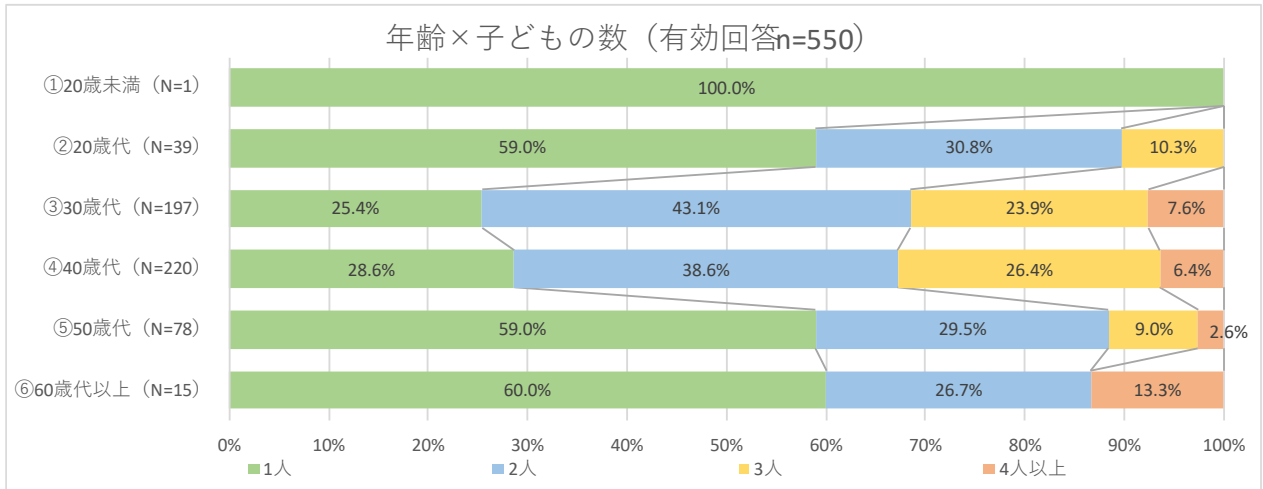
【所見】まず、住居形態の「③その他」の中の8割以上は「親の家」であるため、属性としては「戸建ての持ち家」に近いと考えられる。その上で居住形態をベースに見ていくと、年代が上がるほど持ち家率が高く、逆に若い世代ほど賃貸が多い。地区別では賃貸の8割弱は南上原に立地しており、下地区、上地区は持ち家率が高い。家族構成では賃貸に「3世代同居」が少なく、その他に「あなたと親」が多くなっている。さらに居住年数は長くなるほど持ち家率が高くなっている。

(2) 子育てについて

i) 子どもの数×年齢、居住地 (全て無回答を除く)

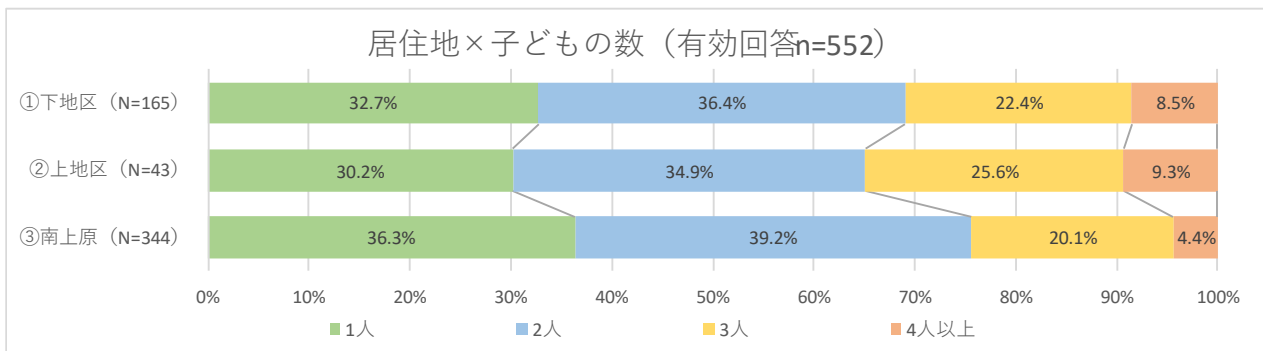
■ ×年齢 ※20歳未満は参考値

	1人	2人	3人	4人以上
①20歳未満 (N=1)	1	0	0	0
②20歳代 (N=39)	23	12	4	0
③30歳代 (N=197)	50	85	47	15
④40歳代 (N=220)	63	85	58	14
⑤50歳代 (N=78)	46	23	7	2
⑥60歳代以上 (N=15)	9	4	0	2



■ ×居住地

	1人	2人	3人	4人以上
①下地区 (N=165)	54	60	37	14
②上地区 (N=43)	13	15	11	4
③南上原 (N=344)	125	135	69	15

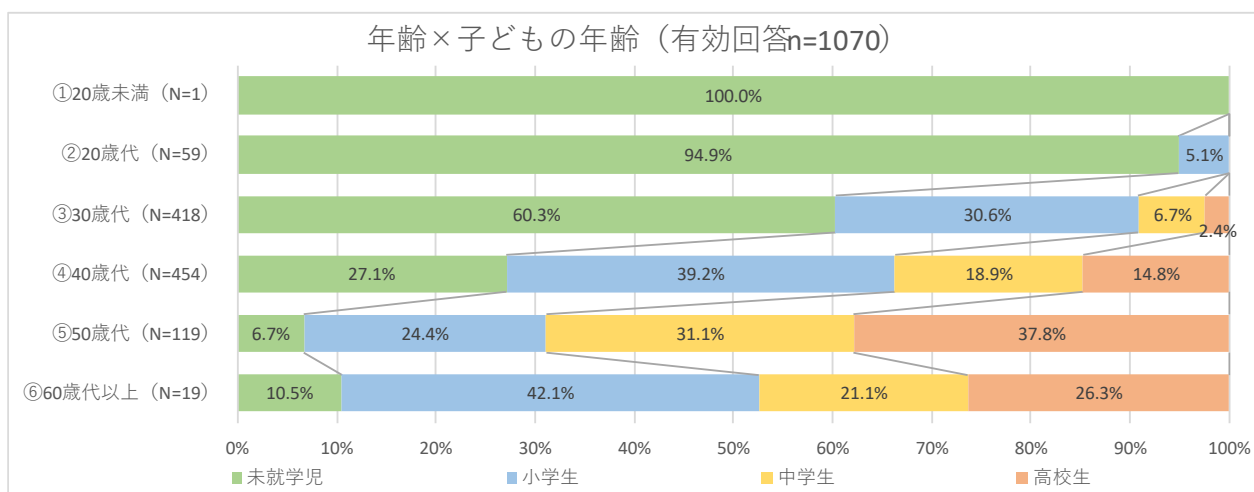


【所見】
 子どもの数をベースに見ていくと、1人と答えた人は20代と50代以上に多い。50代以上の要因としては対象を18歳以下の子どもとしているため兄弟の上の方は成人し、あと1人18歳以下がいると考えるのが妥当であると考えられる。また居住地別では子どもの数に大きな差は見られなかった。

ii) 子どもの年齢×年齢、居住地 (全て無回答を除く)

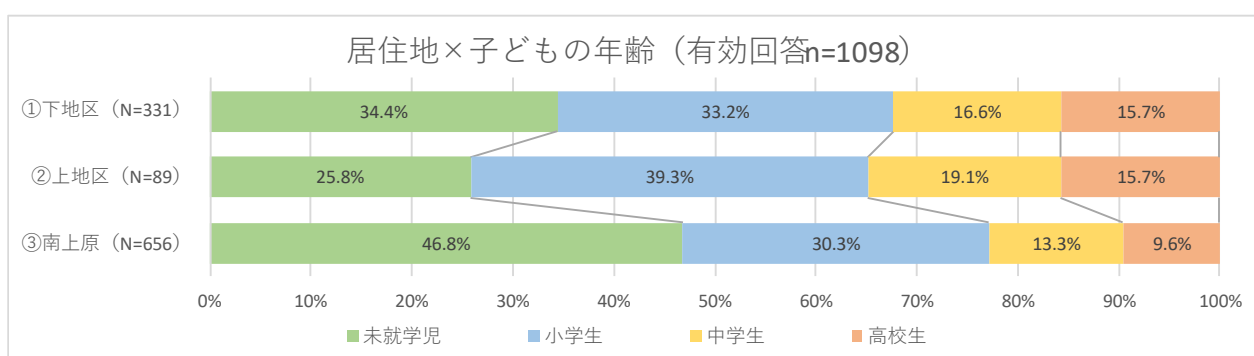
■ ×年齢 ※20歳未満は参考値

	未就学児	小学生	中学生	高校生
①20歳未満 (N=1)	1	0	0	0
②20歳代 (N=59)	56	3	0	0
③30歳代 (N=418)	252	128	28	10
④40歳代 (N=454)	123	178	86	67
⑤50歳代 (N=119)	8	29	37	45
⑥60歳代以上 (N=19)	2	8	4	5



■ ×居住地

	未就学児	小学生	中学生	高校生
①下地区 (N=331)	114	110	55	52
②上地区 (N=89)	23	35	17	14
③南上原 (N=656)	307	199	87	63



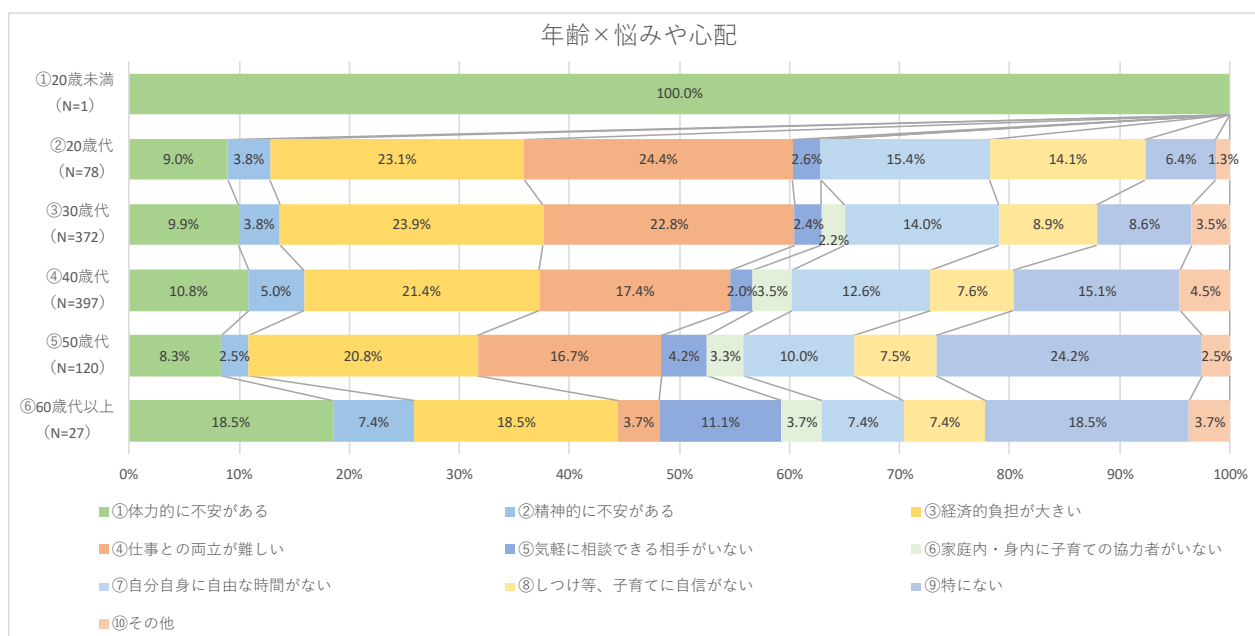
【所見】

子どもの年齢をベースに見ると、親の年代が低いほど低年齢の子どもが多い。また60代以上の未就学児、小学生については自身の孫である可能性がある。また、居住地については南上原は未就学児の割合が高く、上地区は小学生の割合が高い。下地区については未就学児と小学生が同程度である。中学生については南上原の割合が若干低い。

iii) 問6-悩みや心配×年齢、居住地、子どもの数、家族構成 (全て無回答を除く)

■ ×年齢 ※20歳未満は参考値

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
①20歳未満 (N=1)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②20歳代 (N=78)	7	3	18	19	2	0	12	11	5	1
③30歳代 (N=372)	37	14	89	85	9	8	52	33	32	13
④40歳代 (N=397)	43	20	85	69	8	14	50	30	60	18
⑤50歳代 (N=120)	10	3	25	20	5	4	12	9	29	3
⑥60歳代以上(N=27)	5	2	5	1	3	1	2	2	5	1

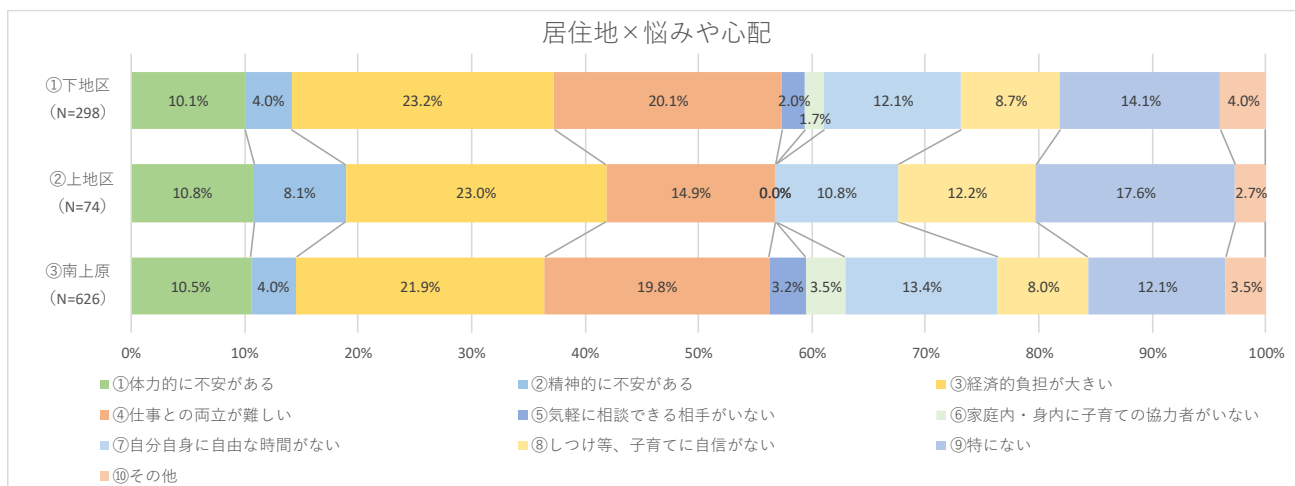


【所見】

50代以下と60代以上で回答割合に差が大きい。これは60代以上の一部が自身の孫を対象に回答しているであろうことと、定年退職している世代が一定数いることが要因と考えられる。全年代を通して「経済的負担」を悩みに上げる人が多いが、50代以下の現役世代ではそれに加えて「仕事との両立」も高くなっている。また60代以上では「体力的な不安」「相談相手がない」が顕著である。さらに「特にない」との回答割合は年代が高くなるほど高くなり、若い世代ほど子育てに対する悩みを抱えている人が多いことがわかる。

■ × 居住地

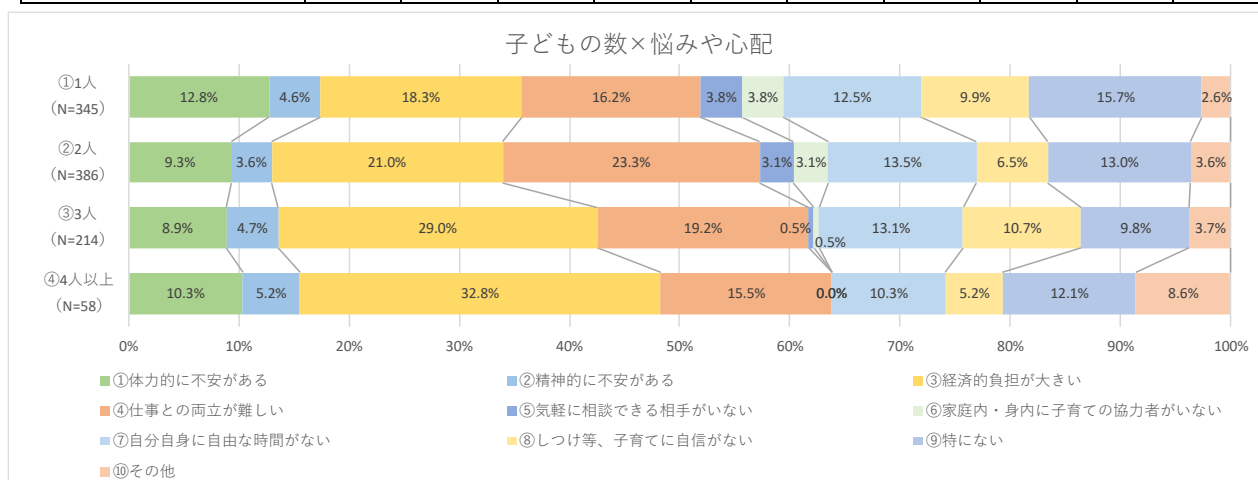
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
①下地区 (N=298)	30	12	69	60	6	5	36	26	42	12
②上地区 (N=74)	8	6	17	11	0	0	8	9	13	2
③南上原 (N=626)	66	25	137	124	20	22	84	50	76	22



【所見】 下地区と南上原については同じような割合で大きな差は見られない。しかし上地区については「精神的な不安」「特にな」割合が他の2地区より高く、「仕事との両立」「相談相手がない」「身近に協力者がいない」が低くなっている。三世帯同居や近所に親がいるなど家庭的な要因が影響している可能性はあるが、要因は定かではない。

■ × 子どもの数 ※20歳未満は参考値

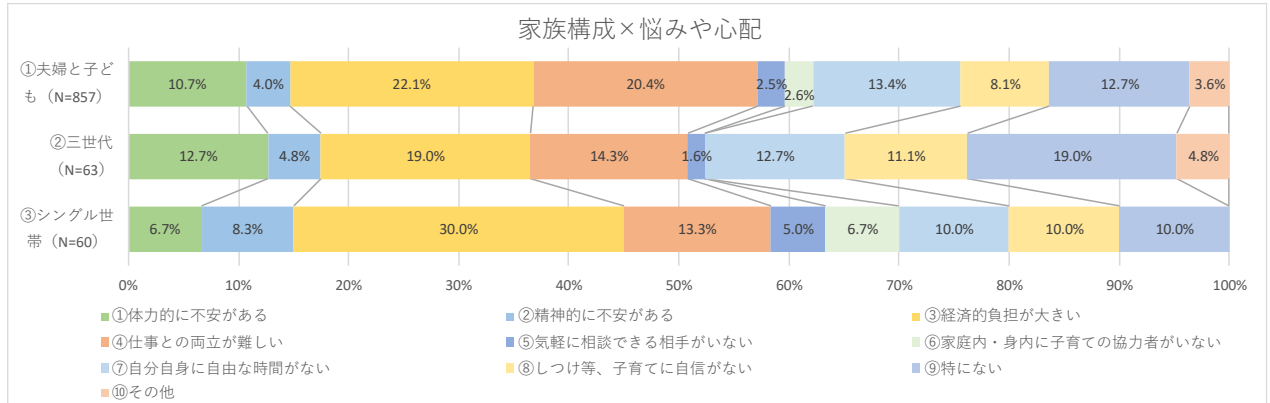
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
①1人 (N=345)	44	16	63	56	13	13	43	34	54	9
②2人 (N=386)	36	14	81	90	12	12	52	25	50	14
③3人 (N=214)	19	10	62	41	1	1	28	23	21	8
④4人以上 (N=58)	6	3	19	9	0	0	6	3	7	5



【所見】 子ども数に関係なく「仕事との両立」は課題となっており、さらに子どもの人数が増えるにつれ「経済的負担」が多くなっている。しかし子どもの人数が増えるにつれ「相談相手がない」「身近に協力者がいない」が減少しており、園や学校、ママ友などコミュニティの広がりが必要であると想定される。

■ × 家族構成

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
①夫婦と子ども(N=857)	92	34	189	175	21	22	115	69	109	31
②三世代(N=63)	8	3	12	9	1	0	8	7	12	3
③シングル世帯(N=60)	4	5	18	8	3	4	6	6	6	0



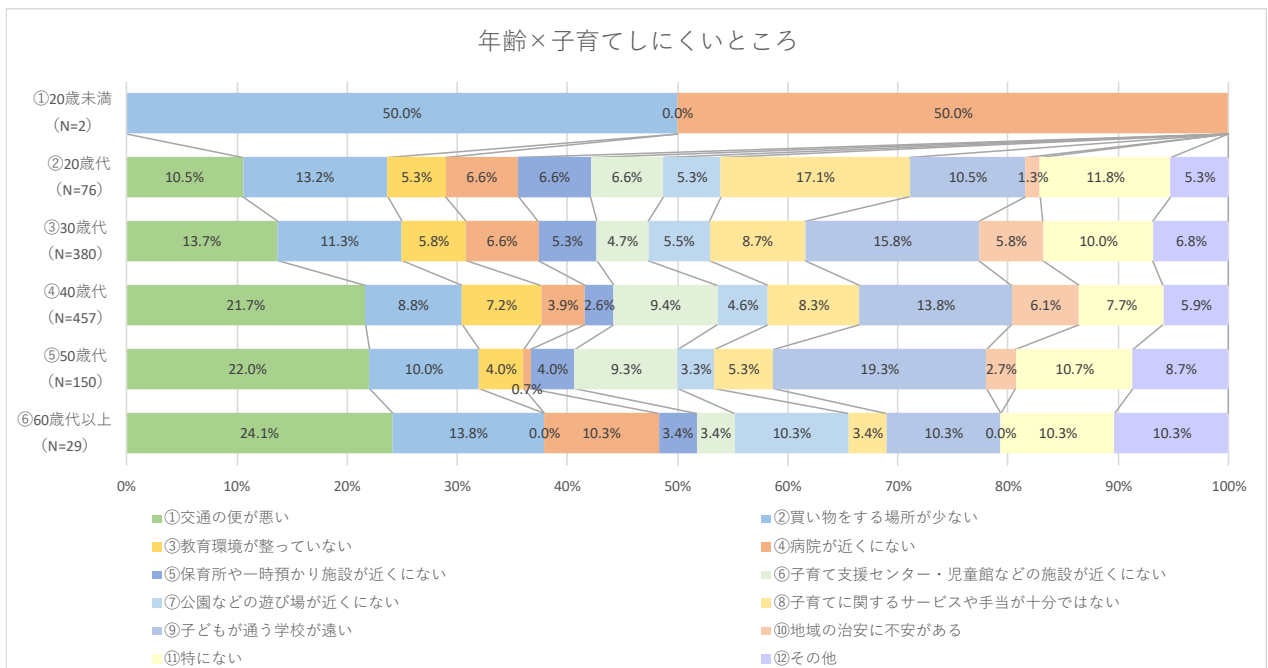
【所見】

家族構成によって課題に大きな差が出ている。核家族世帯については「経済的負担」「仕事との両立」が大きな課題となっており、三世代では「体力的不安」「特になし」の割合が高い。またシングル世帯では「経済的負担」が特に高くなっているほか、「相談相手がない」「身近に協力者がいない」も他と比べて高い結果となっている。

iv) 問7-子育てしにくいところ×年齢、居住地、子どもの数、家族構成 (全て無回答を除く)

■ ×年齢 ※20歳未満は参考値

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
①20歳未満 (N=2)	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
②20歳代 (N=76)	8	10	4	5	5	5	4	13	8	1	9	4
③30歳代 (N=380)	52	43	22	25	20	18	21	33	60	22	38	26
④40歳代 (N=457)	99	40	33	18	12	43	21	38	63	28	35	27
⑤50歳代 (N=150)	33	15	6	1	6	14	5	8	29	4	16	13
⑥60歳代以上(N=29)	7	4	0	3	1	1	3	1	3	0	3	3

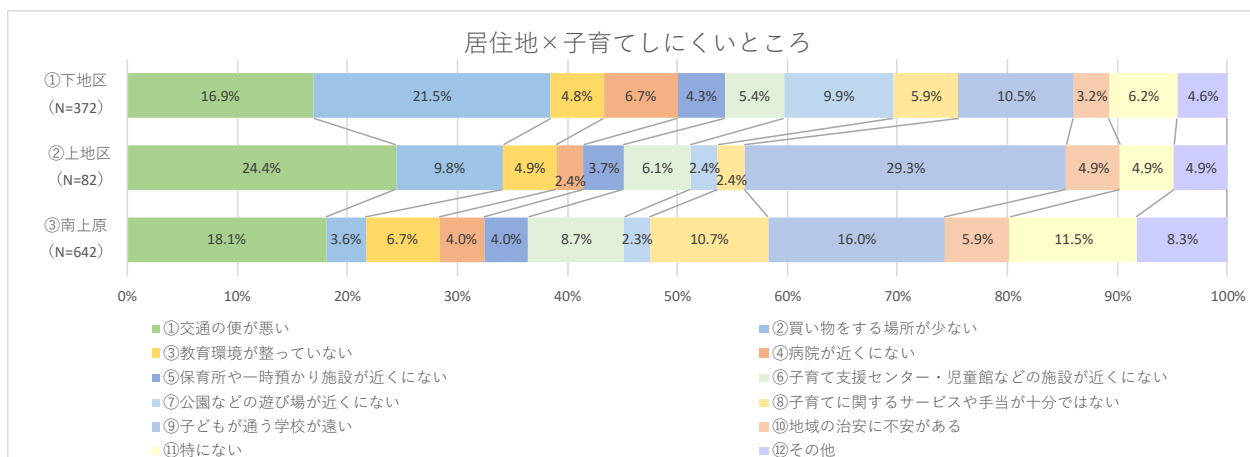


【所見】

20代では「サービスや手当が十分でない」が他と比べて高く「地域の治安が不安」が低い。30代～50代では「子どもの通う学校が遠い」の割合が特に高く、それに合わせて「交通の便が悪い」も高くなっている。60代以上については他の年齢層との違いが顕著である。要因としては孫について回答しているであろうことや「交通の便」「買い物の場所」「病院」など子育てだけではなく、自身の生活をベースとした視点でも回答していることが考えられる。

■ × 居住地

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
①下地区 (N=372)	63	80	18	25	16	20	37	22	39	12	23	17
②上地区 (N=82)	20	8	4	2	3	5	2	2	24	4	4	4
③南上原 (N=642)	116	23	43	26	26	56	15	69	103	38	74	53

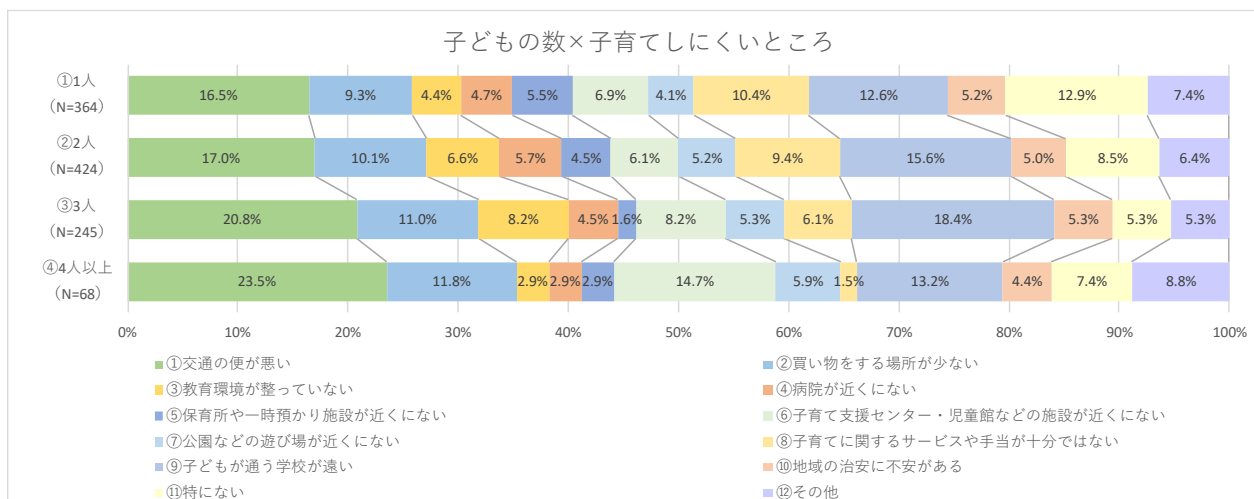


【所見】

居住地別でも回答に大きな差が出ている。下地区では「買い物をする場所が少ない」の割合が特に高く、上地区では「子どもが通う学校が遠い」「交通の便が悪い」の割合が他地区に比べて圧倒的に高い。南上原は極端に割合の高い項目はないが、上下地区と比較すると「買い物をする場所が少ない」が低く、「サービスや手当が十分でない」「特にない」が高くなっている。

■ ×子どもの数

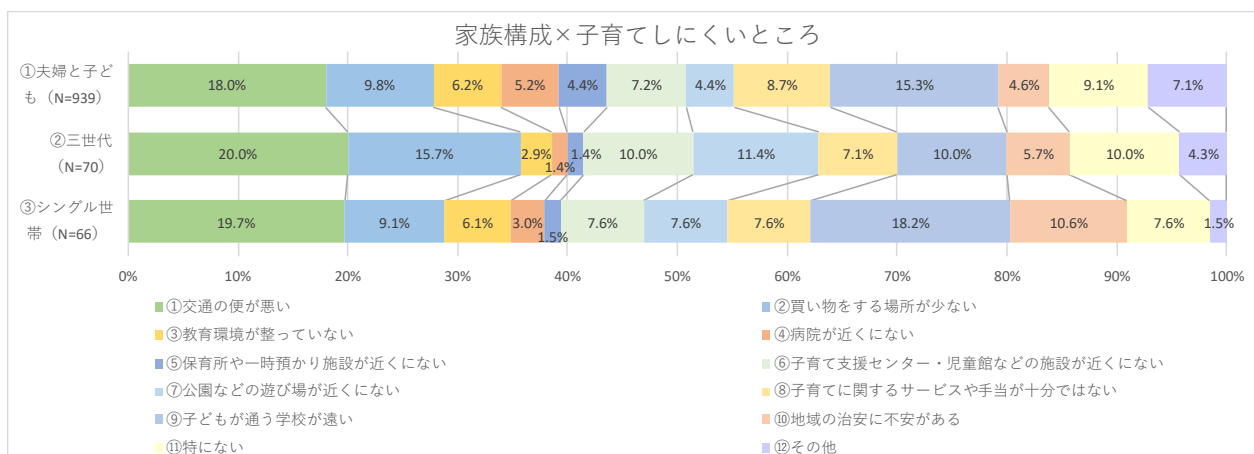
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
①1人 (N=364)	60	34	16	17	20	25	15	38	46	19	47	27
②2人 (N=424)	72	43	28	24	19	26	22	40	66	21	36	27
③3人 (N=245)	51	27	20	11	4	20	13	15	45	13	13	13
④4人以上 (N=68)	16	8	2	2	2	10	4	1	9	3	5	6



【所見】「子どもの通う学校が遠い」の割合が子どもの数に関わらず高くなっている。また「サービスや手当が十分でない」の割合は子どもの数が多くなるにつれて低くなり、「交通の便が悪い」「児童館などの施設が近くにない」の割合は子どもの数が多くなるにつれて高くなっている。子どもの数が多くなるにつれて高くなる項目については、子どもが大きくなることによる行動範囲の拡大などが要因と考えられる。それ以外の項目については子どもの数による大きな差は見られなかった。

■ ×家族構成

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
①夫婦と子ども (N=939)	169	92	58	49	41	68	41	82	144	43	85	67
②三世帯 (N=70)	14	11	2	1	1	7	8	5	7	4	7	3
③シングル世帯 (N=66)	13	6	4	2	1	5	5	5	12	7	5	1

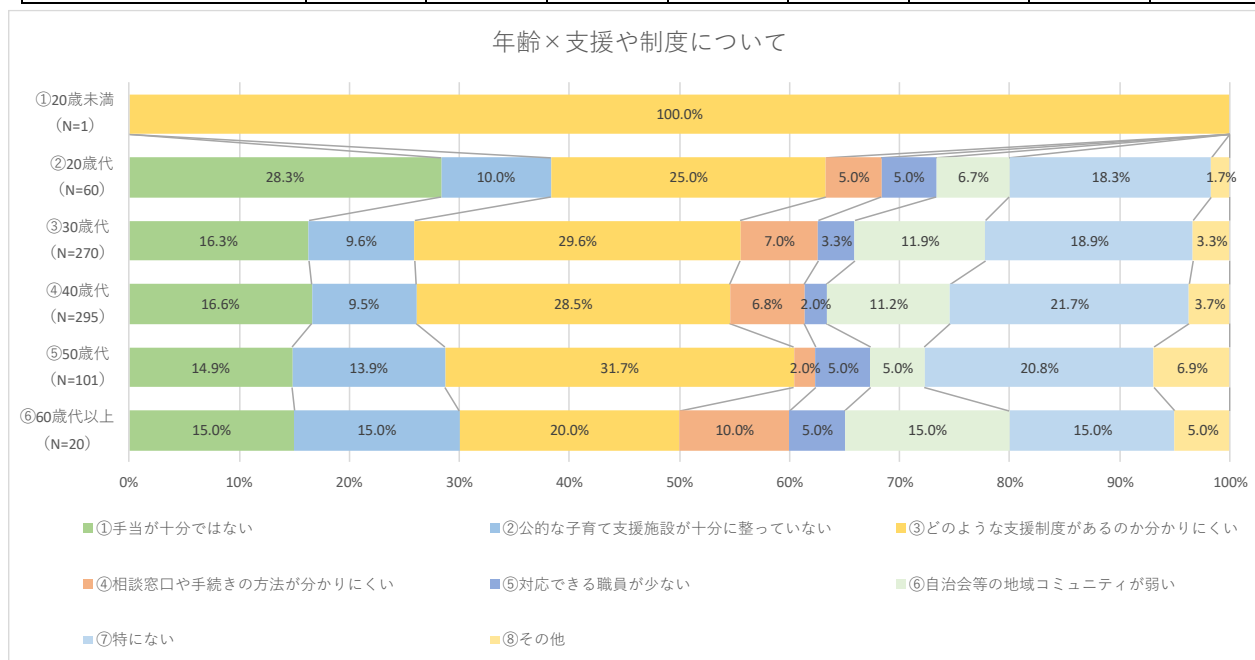


【所見】家族構成に関わらず「交通の便が悪い」の割合が最も高い。また全体の傾向としては核家族世帯と三世帯同居の世帯での差が認められる。核家族の世帯では三世帯同居の世帯と比べて「買い物をする場所が少ない」「支援センターなどの施設が近くにない」「公園などの遊び場が近くにない」の割合が低く、「教育環境が整っていない」「学校が遠い」の回答割合が低い。

v) 問8-支援や制度について×年齢、居住地、子どもの数、家族構成 (全て無回答を除く)

■ ×年齢 ※20歳未満は参考値

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
①20歳未満 (N=1)	0	0	1	0	0	0	0	0
②20歳代 (N=60)	17	6	15	3	3	4	11	1
③30歳代 (N=270)	44	26	80	19	9	32	51	9
④40歳代 (N=295)	49	28	84	20	6	33	64	11
⑤50歳代 (N=101)	15	14	32	2	5	5	21	7
⑥60歳代以上(N=20)	3	3	4	2	1	3	3	1

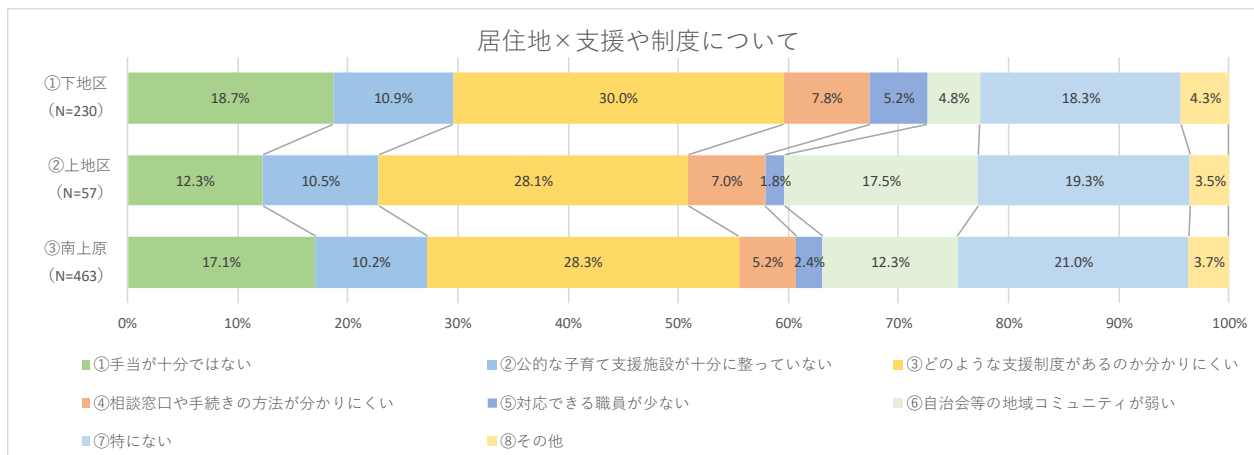


【所見】

20代では「手当が十分でない」の割合が特に高い。30代～50代では「支援制度がわかりにくい」の割合が高くなっている。また「相談や手続きの方法がわかりにくい」「地域コミュニティが弱い」については世代間でばらつきがあり、20代と50代で低く、60代で高くなっている。この要因については分析が必要である。

■ × 居住地

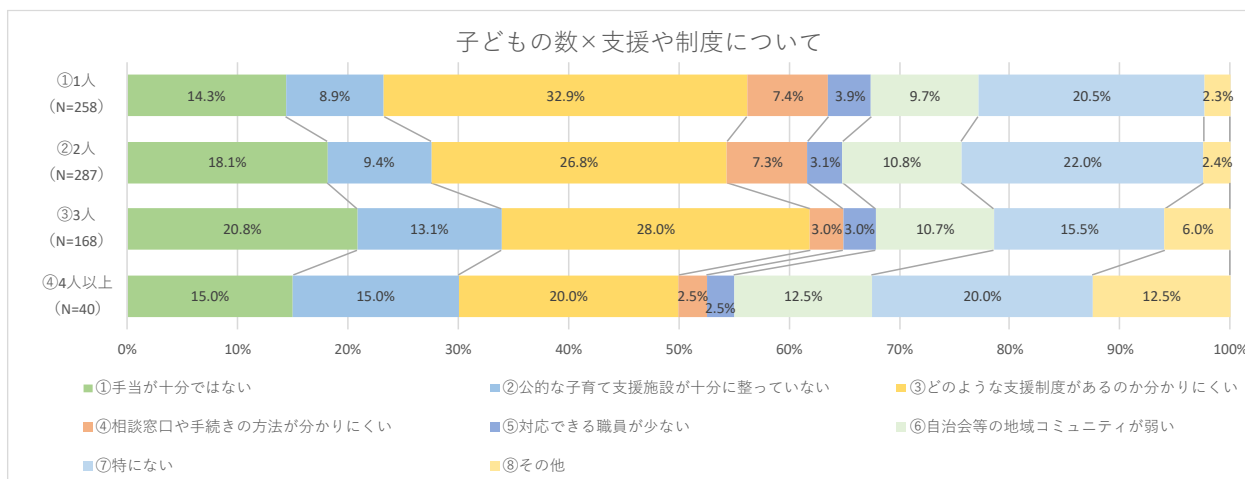
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
①下地区 (N=230)	43	25	69	18	12	11	42	10
②上地区 (N=57)	7	6	16	4	1	10	11	2
③南上原 (N=463)	79	47	131	24	11	57	97	17



【所見】 下地区と南上原は「地域コミュニティが弱い」を除いて大きな差は見られなかった。下地区については他の2地区と比較して「手当が十分でない」の割合が低く、「地域コミュニティが弱い」の割合が高くなっている。

■ × 子どもの数

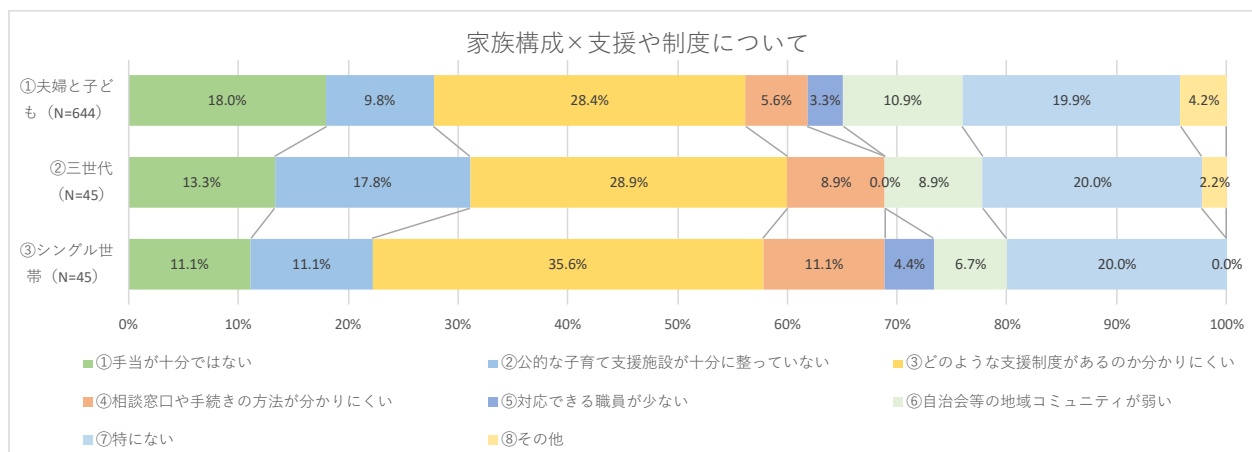
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
①1人 (N=258)	37	23	85	19	10	25	53	6
②2人 (N=287)	52	27	77	21	9	31	63	7
③3人 (N=168)	35	22	47	5	5	18	26	10
④4人以上 (N=40)	6	6	8	1	1	5	8	5



【所見】 子どもの数をベースに見ると、子ども1人～3人の世帯については子どもの数が増えるほど「手当が十分でない」の割合が増加し、手続きへの慣れ等により「支援制度がわかりにくい」「相談や手続きの方法がわかりにくい」が低下する。しかし4人以上の世帯については「相談や手続きの方法がわかりにくい」「対応できる職員が少ない」を除くと同じくらいの割合となっている。

■ × 家族構成

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
①夫婦と子ども(N=644)	116	63	183	36	21	70	128	27
②三世代 (N=45)	6	8	13	4	0	4	9	1
③シングル世帯(N=45)	5	5	16	5	2	3	9	0



【所見】

家族構成をベースに見ると夫婦と子どもの世帯では「手当が十分ではない」「地域コミュニティが弱い」の回答割合が他と比べて高く、三世代同居では「公的な子育て支援施設が整っていない」の割合が高かった。またシングル世帯では「支援制度がわかりにくい」「相談や手続きの方法がわかりにくい」の割合が高かった。